

資料編



資料編

1 ヒアリング調査

(1) 企業ヒアリング

■ヒアリング概要

・宜野湾市で事業を行う上での利点・優位性(立地条件、人材確保、コスト面、都市基盤など)

- 人口の多い那覇市と沖縄市の間立地しており人材確保がしやすい。
- 本島各地への物流面で最も良い場所だと思う。
- 近年は、豊崎や糸満市にも工業地帯が増えてきたが、そこから北部地域への配送は距離が遠すぎる。将来的にも物流面から宜野湾市を出ることは無いと思う。

・宜野湾市で事業を行う上での問題点・阻害要因(立地条件、人材確保、コスト面、都市基盤など)

- バスの本数が少ない等、(クルマ通勤以外の社員にとって)公共交通利用が不便。
- 商業施設が増えるに伴い、一般車両も多く通行するようになり、交通渋滞がひどくなっている。
- 用途地域により出店が制限されるケースが依然として存在する。
- トラック通行による本社周辺の道路の傷み、コンベンションエリア沿いの一般車両の交通量増加など、交通環境は以前より悪くなっている。
- 準工業地域が少ないため、浦添市の西洲のような商業団地を作れる場所がない。

・宜野湾市に本社を構えた理由(他にどこを検討して結果的に宜野湾市になったのか)

- 設立時に国内の候補地(北海道、東北、北陸、九州、沖縄)から人材の確保の優位性、雇用助成金制度による資金的優位性により沖縄を選定。テナント選定時に優良物件(ASIA ビル)があり決定。結果、人材確保、助成金受給も計画のとおり実現した。

・経営上の課題と課題解決に向けた取り組み(人材獲得・定着に向けた取り組みなど)

- 大卒優秀層の確保が困難な状況は継続しており、大学との連携を強化している。
- 事業拡大のため、より広い場所に新しい社屋を造りたいが、まとまった土地(5千坪)が近隣にない。
- 大学新卒者も一定数を採用しているが、近年は内定者が辞退するケースが増え、人材確保に苦労している。一部の業務では派遣社員を受け入れていたが、一度やめてしまうと次の人材の確保に苦労している。
- 会社説明会を開いても訪れる学生の数が減少しており、若い人材の確保はますます難しくなりそうだ。一方で、採用活動をより早くするなどの取り組みはしているが、結果はなかなかでない。
- 首都圏に比べれば若い人材は比較的豊富にいるが、優秀な人材の数は絶対数が少ない。そのため、若くて技術力の高い人材が豊富にいるベトナムに進出して、沖縄の事業の一部を行っている。

・職場環境づくりで意識していること

- 働きやすさを重視し、残業抑制(現在、月間約 15 時間)、事後有給休暇、時間単位の有給休暇、短時間勤務、在宅ワークなどの制度をつくり運営し、社員満足度調査を年1回実施している。

・売上増加、顧客確保に向けての取り組みとその成果

- 沖縄県の人口増加、沖縄を訪れる観光客の増加により、当社の売上も大きく伸びている。

・地域や教育機関、行政への要望

- 主要道路の渋滞緩和
- 託児所・保育所増、料金低減、時間の延長。
- 学校教育(中学・高校)での経営学、経済学教育。ビジネス感覚の醸成。
- 学卒者の県外流出の抑制(県・市内就職への援助・支援)
- 西普天間跡地利用における商業地エリアの設定と民間事業者の意見聴取。
- 宜野湾ベイサイド情報センターの機能拡充や増築。
- 市場に合わせた市発注事業の入札金額の増額。
- 外国人採用における相談窓口の設置、各種必要な取り組みに対するセミナー開催。

(2)教育機関ヒアリング

■教育機関ヒアリング概要

・求人状況

- ここ数年、求人数は安定しており、学生が就職活動を行うのに十分な数がある。
- 保育の求人数が増加している。沖縄県内の各市町村内における保育施設の増加に伴う求人である。また、県外の保育施設からの求人数も増えている。
- 保育関連の求人が多い背景には離職率が高いことも理由としてある。
- 本土企業の場合、基本給が県内よりも高い上に、食費や寮費などを企業が負担するケースが見られる。人材獲得のためにさまざまな取り組みを行っている。

・就職状況

- 就職場所については、基本的に県内を志望する傾向はあるが、近年は待遇の良い県外企業へ就職するケースも増えている。
- 就職率は大学 70%~90%、専門学校 90%~100%。高校 20~30%。いずれも全卒業生に対する就職者の割合。
- 複数社に内定した学生、全く就職先が決まらない学生など、学生の 2 極化が見られる。これは、就職環境の問題ではなく、学生自身の就職や進学に対する姿勢の問題である。

・学生の就業意識

- 学生の就業意識は高い。生徒の約半数は公的な奨学金を得ながら学んでいる。そのため、できるだけ早く奨学金を返す目的で、就職先を県外企業に求めるケースも少なくない(専門学校)。
- 学生の県内志向が強いことはもちろん、保護者も同様に県内志向が強い傾向が続いている。また、学生が県外に就職を希望する際は、かならず保護者の意向も確認するようにしている。
- 求人数は多いが、積極的に就職活動をする生徒は、逆に減っている。10 数年前の就職難のときが真剣さがあつたように思う。売り手市場になったことでかえって学生に甘えが生じているのではないか。
- 学生全般に言えることだが、「打たれ弱い」。就職活動で失敗したり、面接時にきつい言葉をいわれたりすると、もう次の就職活動を行わなくなってしまうことがよくある。
- 売り手市場ではあるが、学生の就職に対する姿勢は例年以上に重い。「いつでも就職できる」という思い込みがあることが考えられる。
- 合同企業説明会に参加する学生の数が年々減少している。昨年度は前年度の約半分程度であった。

・学生のインターンシップ参加状況

- うりずんプラス(沖縄地域インターンシップ協議会)への参加希望者が多い。さまざまなパターンで参加することができるため好評である。
- カリキュラムを設定し、インターンシップ参加前後にガイダンスを行うなど、より効果的なインターンシップにするためのサポートを行っている。
- 学生の見識を広めるために、全学生に1社以上でインターンシップをすることを義務付けている。

・地域や産業界、行政への要望

- 売り手市場となっている現在、学生の就業意識をどのように醸成するかが課題。せっかく就職しても数年内に離職するケースも多い。学生自身の人生やキャリアと仕事をどのように結びつけ、実際に仕事をするとはどういうことかを在学中に知ることや、学生をサポートする体制が必要。
- 県外企業の募集も増え、学生の県外就職意識は高まっているが、県外で就職活動を行うには金銭的に難しい学生が多い。就職する以前の取り組みを支援していただきたい。
- インターンシップ生を受け入れる企業がまだまだ少ないと感じる。
- 求人票を出していただけるのはありがたいが、高校生目線ではどのように企業を見ればいいのかかわかりづらいのも事実。相手は高校生なので、企業が求める具体的な人物像、仕事内容など、求人票を受け取る側の目線で情報を提供していただくとありがたい。
- 奨学金制度を利用して進学、就職する学生の奨学金返済をサポートしてほしい。例えば、在籍年数に応じて奨学金の一部または全額を企業が負担するなどができれば、奨学金利用者も安心して働けると思う。
- 介護職、保育職の待遇改善。県内の各高校で介護職や保育職の職場体験を実施しているが、体験者を募集しても全く生徒が集まらない高校もある。要因は、介護職や保育職の労働環境が良くないからだ。学生も実態は知っている。特に介護職は、高齢化社会をむかえるに当たり、必要性が高まる仕事だ。まずは待遇面を改善し、人が集まる仕事にしなければならないと思う。

(3)関係団体意向調査

■関係団体意向調査概要

・前回調査時と比較して、良くなったと思われるところは何ですか。

- 沖縄西海岸道路の開通により空港からコンベンションエリアへのアクセスが良くなった。
- スイーツ店や飲食店、雑貨店等で個性的な店舗があり、他の市町村からの入域客の増加が見込まれる。
- 空き店舗対策事業を商工会が受託することによって、空き店舗への入居相談がやりやすくなったとの感想がある。また、入居した後の経営指導・経営支援がタイムリーに行える状況になった。
- 宇地泊(土地区画整理地区)の地域店舗等の活性化。交通アクセスが大変良くなり、居住環境も整備され市民生活に活気がある。
- 我如古交差点、中部商業高校前交差点の道路整備に伴い、国道 330 号の渋滞が緩和された。現在は宜野湾市道 11 号の整備が進んでおり、さらに国道 330 号の渋滞緩和等が期待される。

・前回調査時と比較して、あまり変化がない、または悪くなったと思われるところは何ですか。

- 大山地区から北谷町美浜方面への国道、コンベンションエリアから大謝名交差点・真栄原交差点方面への県道ともに交通渋滞が緩和されていない。
- コンベンションエリアでのホテルの宿泊客や大型イベントへの来訪客を市内に回遊させる取り組みがない。
- 小規模店舗の利用客のための駐車場の絶対数が足りない。駐車場確保対策に行政側の積極的な姿勢が見えない。
- 「都市基盤整備の遅れ」「企業誘致のための土地不足」などは変化していない。
- 普天間の再開発および国道 330 号線および県道 34 号線の慢性的交通渋滞が緩和されていない。
- 施設や店が点で存在しているが、回遊させる仕組み、街づくりが必要と感じる

・産業を発展させるうえで課題と思われるものは何ですか。

- 製造業に対する商品開発、試作や試験研究を支援する制度が必要である。
- 観光入域客等が市内で回遊できる仕組みが必要である。市内の巡回バス等があればコンベンションエリアからの回遊性が増すものと思われる。
- 産業振興の中核となる施設がないため、総合経済産業支援センターとして早期に建設する必要がある。
- 観光客を集客するための西海岸や普天間地区通り沿いの Free-Wi-Fi 環境の充実。
- 大型客船が来航できるような港の開発(「仮設避難港」の活用)および集客施設の誘致等。

・産業発展の課題に対して、取り組んでいることがあればご教示ください。

- 商工会会員に対し、製造業の商品開発における発想力・販路拡大・販売促進のための市外物産展や商談会等への参加を促進している。
- 観光入域客による市内の飲食店や雑貨店の利用を促進するため、インバウンド事業や市内消費喚起事業を通じ、市内外の消費者へ多言語対応による店舗紹介のホームページ「Fine Days GINOWAN」や店舗紹介冊子「ぎのわん本」を使ってPRを行っている。

・課題解決のために宜野湾市に求めることがあればご教示ください。

- 産業支援の中核となる総合経済産業支援センターの早期建設。
- 食品製造および加工業者等に対する商品開発および販路拡大に係る支援施策の継続と充実。
- 観光入域客等の市内回遊を目的とした巡回バスやレンタル自転車等の導入。
- 西普天間地域の開発促進と企業誘致の土地の整備(大山地区)と大山田いも振興計画の具体化策。
- 都市型農業の推進の為に遊休地の活用、圃場の確保。
- 農を生かしたファミリー体験農園、市民参加型園芸施設の計画の実現化。農漁商工による連携した交流拠点発掘。
- 市が目指す姿の明確化。

・その他、自由意見

- 都市型農業を推進するにあたり制度の導入、近隣の市町村との統合した遊休地活用などの近々の課題。現状の農家経営安定化・営農支援で本市が何故出来ないか是非とも行政にも知恵を貸して頂きたい。
- 現在実施されている「ぎのわん地域づくり塾」など、異業種の方々と地域について学ぶことはとても良いことだと思う。それぞれの地域で新たに気付く事もあり、どのように発展させるかなど地域で考える事も大事ではないかと思う。

2 アンケート調査

(1) 市民アンケート

調査概要

調査対象	20 歳以上の市民 2001 人(無作為抽出)
調査手法	郵送による配布・回収
スケジュール	発送日:2018 年 10 月 19 日 締切日:2018 年 11 月 7 日
発送・回収件数	発送件数:2001 先 宛先不明による返送:5 件 有効回収数:500 件
回収率	25.1%
備考	構成比を示す表において、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

■調査結果概要

食料品、日用品など比較的毎日消費するものについては、市内での消費が約 8 割であったが、衣料品や外食など不定期に消費されるものについては市外での消費が約半数であった。消費活動上での問題点は駐車場に関するものが最も多かった。この点は従来から指摘されている課題である。また、個人商店や商店街の利用はほとんどない。この状況は他の市町村でも共通の課題となっている点である。

普天間、真栄原、西海岸地区の利用状況については、普天間、真栄原地区はほとんど利用されていない。駐車場が少ないことやどんな店があるのかわからないというのが理由であった。駐車場がなければ訪れる対象になることがないため、結果としてその地域の様子がわからなくなる、という悪循環になってしまう可能性が高い。

イベント参加状況については、ぎのわんはごろも祭りの参加率が 8 割以上と高いものの、他のイベントについては参加率が少なく、認知度の低さが目立った。さらに、イベントに参加しない理由としては、知らないことや、関心・興味がないという理由も大きなウェイトを占めている。

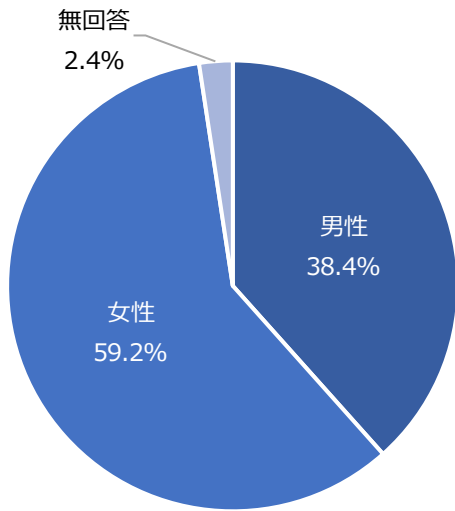
施設利用状況について施設別の訪問経験をみると、宜野湾市市立グラウンドが最も高く 6 割以上となった。その他の施設では訪問経験や認知度の低さが目立った。

行政に対する要望では交通インフラに関するものが最も高く、企業に対する要望では、正規雇用の拡大、賃金の増加、福利厚生充実など、働く環境の改善・向上に対する意見が多い。

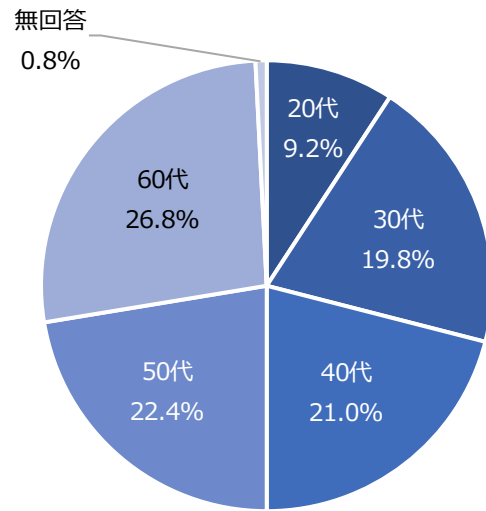
起業への関心は低いですが、起業に関心がある場合の空き店舗活用については、約 7 割に活用意向が見られた。

■回答者のプロフィール

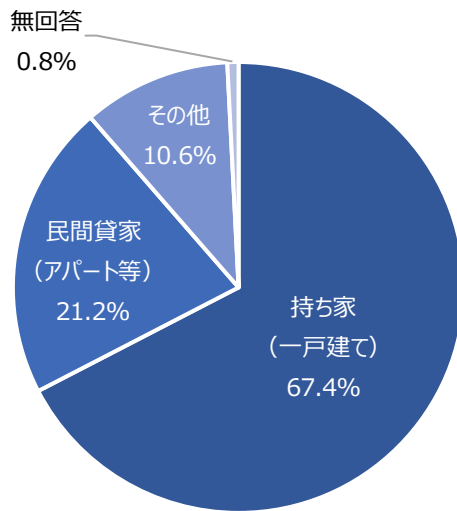
【性別】



【年代】

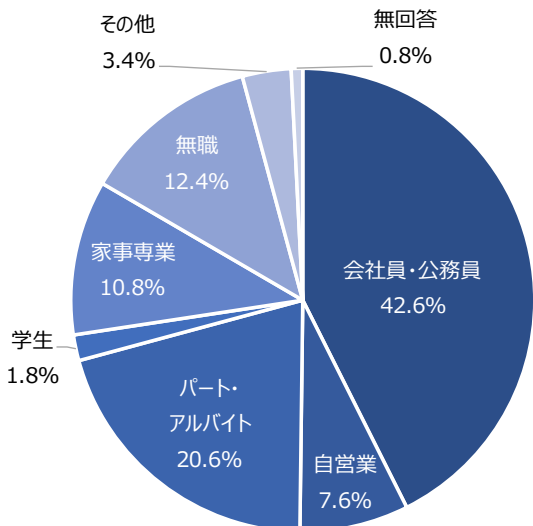


【居住形態】

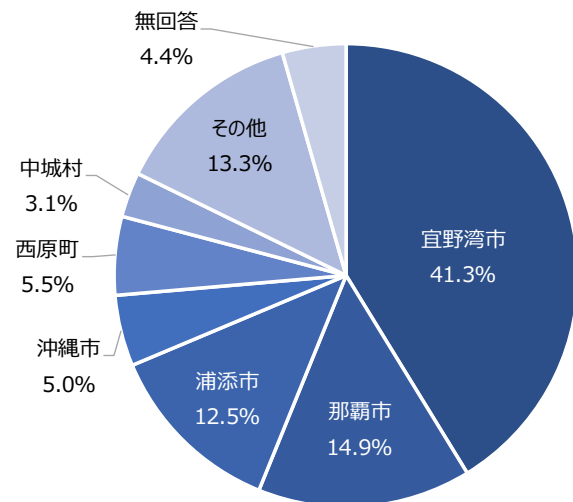


その他一覧 (%)	
持ち家 (マンション)	3.2
公営貸家 (団地など)	1.0
間借り・下宿	1.0
社宅・官舎	0.2
その他	5.2

【職業】



【勤務地・通学地】

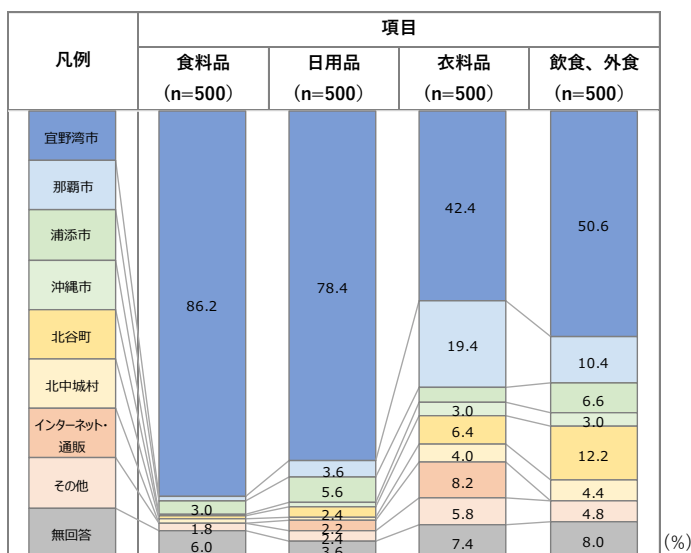


■ 調査結果

問 1. 日頃、買い物や外食をどこでしていますか？最も当てはまる場所 1 つに○をしてください。また、それを選んだ理由を 3 つまでお選び下さい。

- 食料品、日用品は、約 8 割が市内で購入されている。市内店舗を利用する理由としては「店が近い」というのが最も多い。市内での購入について、衣料品は 4 割程度、飲食、外食は約半数であった。
- 衣料品を購入する場所の選択理由では、「品揃え、メニューが豊富」というのが最も多い理由であった。飲食、外食では、「店が近い」が 54.6%であったが、「品揃え、メニューが豊富」も 39.8%であった。
- 各項目を選択した理由の中で「駐車場が利用しやすい」が選ばれた割合はおよそ 4~5 割となっており、購入場所を決める上で、重要な位置づけになっている。

【購入場所比較】



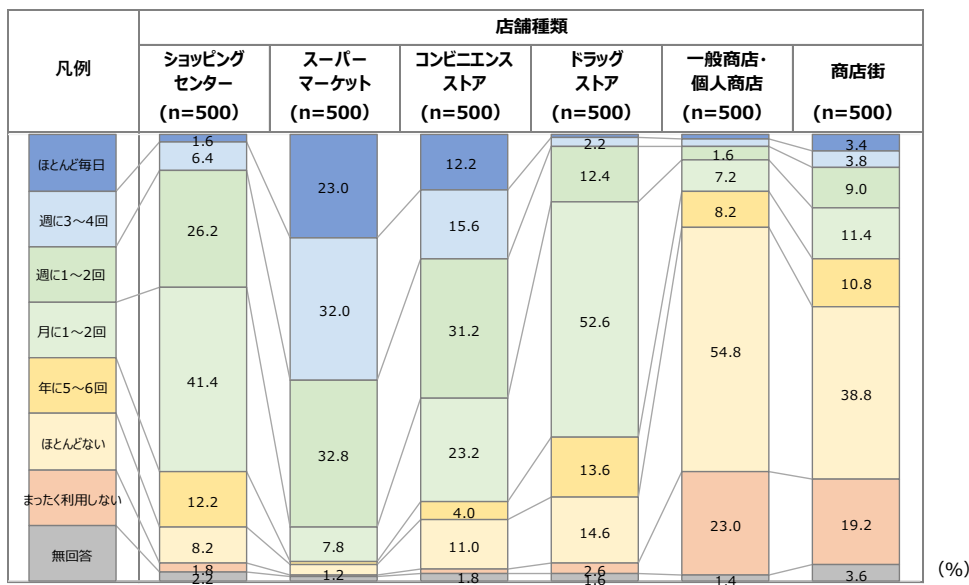
【購入場所を選択した理由】

凡例	地域			
	食料品 (n=470)	日用品 (n=482)	衣料品 (n=463)	飲食、外食 (n=460)
店が近い	89.4	78.8	39.1	54.6
品揃え、メニューが豊富	38.3	44.8	63.5	39.8
価格が安い	29.6	28.6	32.2	21.1
品質がよい	21.5	6.6	21.0	30.9
雰囲気・サービス内容が良い	7.0	6.6	10.6	25.9
その店舗でしか入手できない商品・サービスがある	4.5	12.0	27.9	12.8
駐車場が利用しやすい	47.9	42.7	38.2	37.8
その他	1.9	1.2	2.6	3.0
無回答	0.2	0.8	0.4	1.3

問 2. 宜野湾市内での買い物や食事で利用する施設の利用頻度について、あてはまるものを選んで下さい。(それぞれ○は1つ)

- 利用頻度は店舗の種類により異なる傾向が見られる。
- スーパーマーケットやコンビニエンスストアは「週に1~2回」が最も多かった。
- ショッピングセンターやドラッグストアは「月に1~2回」が最も多く、必要なときに利用する傾向が明確になった。
- 一般商店・個人商店、商店街は「ほとんどない」が最も多かった。特に、一般商店・個人商店は54.8%と半数以上が「ほとんどない」という結果であった。

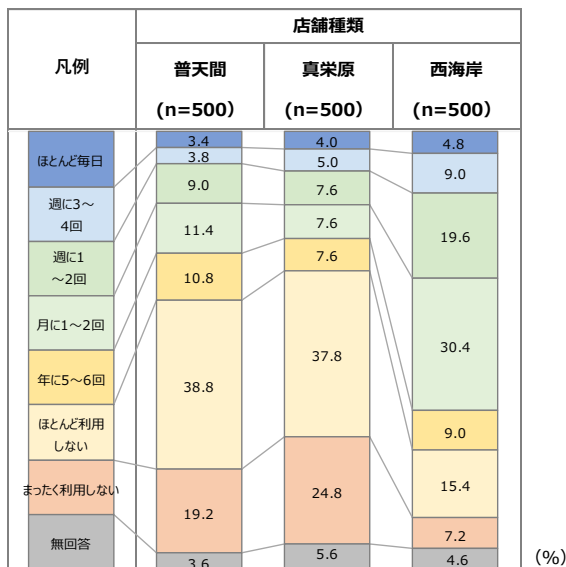
【店舗種類別の利用頻度比較】



問 3. 以下の 3 つの商業・近隣商業地域にある施設の利用頻度について、それぞれあてはまるもの 1 つに○をつけて下さい。また、それぞれの地区を訪れる上で困ることについて、当てはまるもの 3 つに○をつけて下さい。

- 3 つの地区とも、毎日利用される割合は 5%以下であったため、多くの人が日常的に利用する場所ではない。
- 地区別では普天間地区、真栄原地区は「まったく利用しない」と「ほとんど利用しない」の合計が約 6割と過半数を占めている。理由として、普天間地区は「駐車場が少ない」52.8%、真栄原地区は「どんな店があるのかわからない」32.6%が挙げられている。駐車場が少ないことで客足が遠のき、結果的にその地区の情報がわからなくなり、更に訪れなくなる、という悪循環になっている可能性がある。
- 西海岸地区は「月に 1～2 回」の利用率が最も高く 30.4%であった。困ることで最も多かったものは、「渋滞が多い」37.0%であったが、「困ることはない」も 36.0%で同程度あった。

【商業地区別の訪問頻度の比較】



【商業地区別の困ること比較】

凡例	商業地域		
	普天間 (n=500)	真栄原 (n=500)	西海岸 (n=500)
駐車場が少ない	52.8	24.0	10.0
周辺の道路が狭い	32.0	18.4	6.0
周辺の道路が暗い	5.8	6.4	2.6
賑わいがない	23.4	17.0	3.6
どんな店があるのかわからない	30.6	32.6	16.6
渋滞が多い	17.2	27.0	37.0
その他	5.6	2.6	4.8
困ることはない	15.0	19.8	36.0
無回答	9.0	16.4	12.2

(%)

問 4. 市内の各イベントについて、あてはまるものを選んで下さい。(○は1つ)また、「1.行ったことがある」については満足度を、「2.知っているが行ったことはない」については、理由を選んでください。(○は1つ)

- 最も訪問した割合が高かったイベントは「ぎのわんはごろも祭り」の 81.4%であった。次いで「宜野湾市産業まつり」56.0%、「宜野湾市青年エイサー祭り」41.4%であった。
- 「横浜 DeNA ベイスターズキャンプ」、「宜野湾市トロピカルビーチ開き」、「琉球海炎祭」は、「知っているが行ったことはない」と答えた割合が約 6 割であった。
- 「我如古スンサーミー」、「獅子舞」は約 7 割が「知らない」と答えている。
- 「琉球海炎祭」は、訪問率は 29.8%でそれほど高くないが、満足度は 55.0%で最も高かった。
- イベントに参加しない理由で最も多かったのは「関心・興味がない」が 62.5%であった。性別、年代別に見ても傾向に違いは見られない。

【施設別の比較】

(%)

	訪問経験			訪問者満足度		
横浜DeNAベイスターズキャンプ	35.0	58.2	5.8	15.4	76.0	5.1
宜野湾市トロピカルビーチ開き	24.2	62.4	12.6	19.8	69.4	4.1
琉球海炎祭	29.8	63.0	6.4	55.0	32.9	7.4
我如古スンサーミー（豊年祭）	1.6	24.8	70.0	0.0	87.5	12.5
トロパ（トロピカルビーチミュージックパーティー）	7.2	34.0	58.0	22.2	55.6	13.9
大綱引き（大山、真志喜）	16.8	51.8	30.6	22.6	66.7	6.0
ぎのわんはごろも祭り	81.4	17.6		30.2	60.4	7.1
獅子舞（普天間、大謝名）	6.2	24.8	68.6	16.1	71.0	9.7
宜野湾市青年エイサー祭り	41.4	43.4	13.8	31.4	63.3	4.3
普天満宮例大祭	9.0	42.2	47.4	31.1	64.4	2.2
宜野湾市産業まつり	56.0	30.6	12.0	17.8	73.3	7.5

■ 行ったことがある ■ 満足 ■ 普通 ■ 不満 ■ 無回答
■ 知っているが行ったことはない
■ 知らない ■ 無回答

問 5. 市内の施設について、あてはまるものを選んでください。(○は 1 つ)

また、「1.行ったことがある」「2.知っているが行ったことはない」については、満足度、または理由についても当てはまるものを選んでください。(○は 1 つ)

- 最も訪問した割合が高かった施設は「宜野湾市立グラウンド」の 63.4%であった。次いで「宜野湾市立博物館」56.4%、「ぎのわんゆいマルシェ」52.4%であった。
- 「宜野湾ベイサイド情報センター」、「宜野湾市勤労青少年ホーム」は、「知らない」と答えた割合が 5 割以上、「宜野湾市人材育成交流センターめぐき」は 7 割以上であった。
- どの施設においても、訪問者における不満は比較的少なかった。
- 各施設を利用しないのは「興味・関心がない」から(51.2%)。

【施設別の比較】

施設名	訪問経験			訪問者満足度		
	行ったことがある	知っているが行ったことはない	知らない	満足	普通	不満
宜野湾マリン支援センター	21.6	34.8	41.8	10.2	70.4	16.7
ぎのわんゆいマルシェ	52.4	13.6	32.2	17.9	64.9	15.3
宜野湾ベイサイド情報センター	16.6	23.6	57.8	22.9	60.2	15.7
宜野湾市立博物館	56.4	33.0	8.6	20.6	69.9	8.5
宜野湾市人材育成交流センターめぐき	6.0	18.4	74.0	13.3	63.3	16.7
宜野湾市立グラウンド	63.4	20.8	14.4	15.1	72.9	10.1
宜野湾市勤労青少年ホーム	27.8	16.8	53.8	18.0	68.3	12.9

■ 行ったことがある ■ 満足 ■ 普通 ■ 不満 ■ 無回答
■ 知っているが行ったことはない
■ 知らない ■ 無回答

問 6. 産業活性化や地域活性化のために力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。(○は3つまで)

- 力を入れるべき取り組みの上位6位のうち、交通渋滞および駐車場に関する項目が3つ、公共交通機関に関する項目が1つあり、総じて交通インフラに関連する取り組みへの関心の高さがうかがえる。
- 情報産業に関する取り組みについては低位となっており、市民の関心は低い。
- 比較的男性の方が関心が高い項目は、「プロ野球キャンプをはじめとするプロスポーツ大会開催等への支援」、「MICE・リゾート基盤の整備・拡充」などである。
- 比較的女性の方が関心が高いと思われる項目は、「空き店舗対策」、「多彩なイベントの充実」、「公共交通機関の利便性向上」、「体験農業、体験漁業の促進」などである。

項目	全体 (n=500)	性別		年代				
		男性 (n=192)	女性 (n=296)	20代 (n=46)	30代 (n=99)	40代 (n=105)	50代 (n=112)	60代 (n=134)
交通渋滞の解消	47.2	50.5	45.3	52.2	54.5	45.7	46.4	42.5
国道58号や国道330号沿いの道路沿道型商業地域における駐車場対策	30.0	28.6	31.4	28.3	29.3	30.5	30.4	31.3
空き店舗対策	26.8	24.0	29.4	28.3	29.3	23.8	36.6	18.7
商店街における駐車場の確保	25.2	27.6	23.0	8.7	22.2	21.0	32.1	30.6
多彩なイベントの充実	23.2	20.3	25.0	26.1	20.2	30.5	27.7	14.9
公共交通機関の利便性向上	23.0	19.3	26.0	37.0	31.3	20.0	22.3	14.2
中心市街地（普天間地域）の活性化	20.2	21.4	19.6	17.4	15.2	20.0	16.1	27.6
観光関連施設の充実	10.0	10.4	10.1	15.2	11.1	13.3	5.4	9.0
農産物・水産物を活用した特産品の奨励や販路拡大	10.0	9.9	10.5	6.5	7.1	8.6	11.6	12.7
地域資源を活用した商品のブランド化	8.0	7.3	8.4	15.2	8.1	8.6	8.9	4.5
プロ野球キャンプをはじめとするプロスポーツ大会開催等への支援	7.8	11.5	5.4	6.5	11.1	10.5	5.4	6.0
市産品等の普及	7.0	6.8	7.4	2.2	3.0	4.8	11.6	9.7
地産地消の促進	7.0	7.3	6.4	4.3	4.0	6.7	6.3	9.7
大学や専門学校及び産業支援機関等との連携、活用	5.8	6.3	5.7	8.7	8.1	8.6	1.8	4.5
体験農業、体験漁業の促進	5.0	3.6	6.1	4.3	9.1	3.8	3.6	4.5
MICE・リゾート基盤の整備・拡充	3.8	5.7	2.4	4.3	3.0	4.8	2.7	4.5
情報通信産業の誘致	1.4	1.0	1.7	2.2	0.0	1.9	2.7	0.7
MICEイベントの誘致	1.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.9	1.8	0.0
情報通信産業の基盤整備	0.8	1.0	0.7	0.0	3.0	1.0	0.0	0.0
わからない	4.0	3.1	3.7	2.2	3.0	2.9	2.7	7.5
その他	6.4	5.7	7.1	8.7	10.1	7.6	3.6	4.5
無回答	1.6	2.1	1.4	0.0	1.0	1.9	0.0	3.7

(%)

問 7. 市内企業に何を求めますか。(○は 3 つまで)

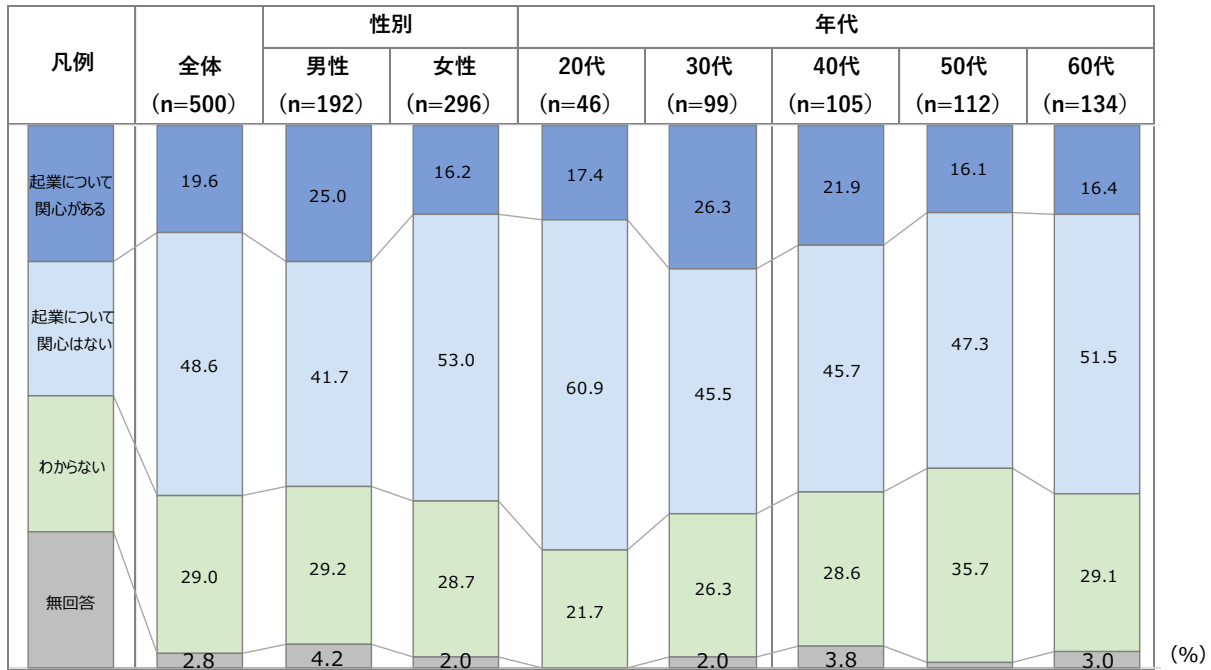
- 「正規雇用の拡大」、「賃金等の増加」、「福利厚生の充実」など、働く環境の改善・向上に対する関心が高い。
- 比較的男性の方が関心が高いと思われる項目は、「地域行事への参加・協力」、「障害者など多様な人の雇用促進」などである。
- 比較的女性の方が関心が高いと思われる項目は、「短時間労働制の採用」、「環境問題への取り組み」、「在宅労働の採用」などである。

項目	全体 (n=500)	性別		年代				
		男性 (n=192)	女性 (n=296)	20代 (n=46)	30代 (n=99)	40代 (n=105)	50代 (n=112)	60代 (n=134)
正規雇用の拡大	41.2	42.7	41.6	43.5	40.4	37.1	48.2	38.1
賃金等の増加	37.6	36.5	38.9	45.7	46.5	48.6	33.0	23.9
福利厚生 of 充実	26.6	24.0	28.7	30.4	33.3	35.2	21.4	18.7
短時間労働制の採用（勤務時間の短縮・短時間正社員制度など）	17.8	14.1	20.6	19.6	19.2	17.1	21.4	14.2
休みやすい職場環境づくり	17.8	17.2	17.9	32.6	29.3	15.2	13.4	10.4
地域活動への貢献（地域の組織との連携・ボランティア活動・防犯活動など）	17.0	18.8	16.6	8.7	10.1	19.0	17.0	23.1
人材育成のための研修制度の拡充	16.8	16.1	17.6	17.4	14.1	14.3	17.0	20.1
地域行事への参加・協力（お祭り・イベントなど）	14.4	18.2	12.2	4.3	11.1	14.3	16.1	19.4
環境問題への取り組み	13.6	10.9	15.5	15.2	9.1	12.4	17.0	13.4
障がい者など多様な人の雇用促進	12.6	16.7	10.1	19.6	9.1	8.6	17.0	11.2
小・中学生への職業体験や見学の機会の提供	12.4	12.0	12.8	13.0	17.2	11.4	9.8	11.9
在宅労働の採用	9.4	6.8	10.8	6.5	14.1	7.6	13.4	5.2
特に無い	11.2	12.5	9.1	4.3	8.1	9.5	8.9	19.4
その他	0.8	0.5	1.0	2.2	0.0	1.9	0.0	0.7
無回答	2.6	2.6	2.4	2.2	3.0	2.9	0.0	3.7

(%)

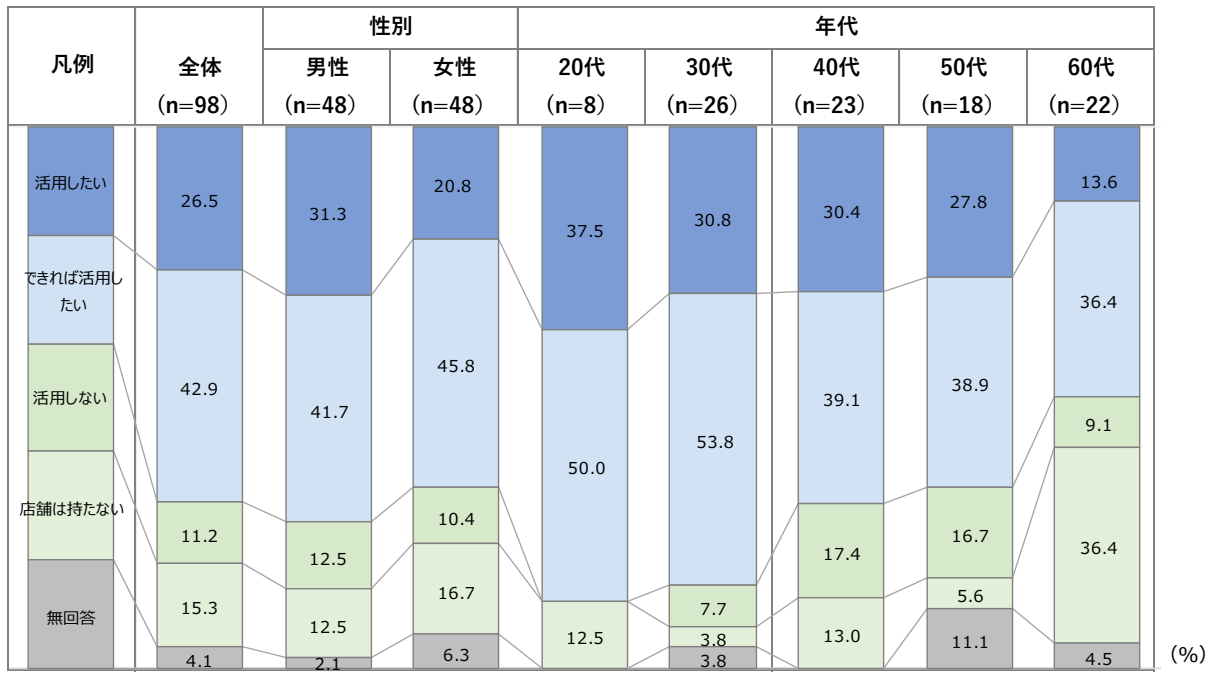
問 8. 起業に対する関心度について、あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

- 全体では「起業について関心はない」が 48.6%であった。
- 年代別では、30 代の関心度が最も高く、26.3%。最も関心度が低かったのは 50 代の 16.1%であった。



問 9. (問 8 で「起業について関心がある」と答えた人が対象) 宜野湾市内には、起業時に活用できる空き店舗が多くあります。それらの空き店舗活用について、あてはまるものを選んでください。(○は 1 つ)

- 「活用したい」、「できれば活用したい」を合わせると約 7 割に活用意向がある。
- 年代が高くなるにつれ、空き店舗活用意向の割合が低下している。
- 60 代では「店舗を持たない」と答えた割合が 36.4%で各年代の中で最も高かった。



問 10. 問 9 で「1. 活用したい」、「2. できれば活用したい」とお答えした方にお聞きします。空き店舗を活用する際に求める条件は何ですか。(○は 3 つまで)

- 空き店舗活用に求める条件で最も関心が高かったのは、「利用客の駐車スペースが充分あること」82.4%、次いで「開業経費を抑えられること」73.5%であった。
- 年代別では、50代、60代で駐車スペースが多く挙げられている。30代では開業経費が特に多い。

項目	全体 (n=68)	性別		年代				
		男性 (n=35)	女性 (n=32)	20代 (n=7)	30代 (n=22)	40代 (n=16)	50代 (n=12)	60代 (n=11)
利用客の駐車スペースが十分あること	82.4	74.3	90.6	85.7	77.3	75.0	91.7	90.9
開業費を抑えられること	73.5	74.3	71.9	57.1	90.9	75.0	75.0	45.5
ある程度人通りが期待できること	47.1	42.9	53.1	57.1	40.9	56.3	41.7	45.5
専門家のアドバイスが受けれること	30.9	31.4	31.3	28.6	27.3	31.3	33.3	36.4
既存設備を利用できること	25.0	22.9	25.0	14.3	31.8	18.8	25.0	27.3
その他	1.5	2.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 11. 問 9 で「3. 活用しない」とお答えした理由は何ですか。(○は 3 つまで)

- 「宜野湾市内では起業は考えていない」と答えた割合が最も高く 58.3%。次いで「利用客の駐車スペースが十分でない」が 50.0%、「空き店舗周辺は人通りが少ない」が 25.0%であった。

項目	全体 (n=12)	性別		年代				
		男性 (n=7)	女性 (n=5)	20代 (n=0)	30代 (n=2)	40代 (n=4)	50代 (n=3)	60代 (n=3)
宜野湾市内では起業は考えていない	58.3	57.1	60.0	0.0	50.0	100.0	33.3	33.3
利用客の駐車スペースが十分でない	50.0	28.6	80.0	0.0	0.0	25.0	100.0	66.7
空き店舗周辺は人通りが少ない	25.0	14.3	40.0	0.0	0.0	25.0	33.3	33.3
専門家のアドバイスが少ない	8.3	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
利用できる既存設備が少ない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	16.7	0.0	40.0	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

自由意見(簡易整理)

市の産業の現状に関してお感じのこと、地域経済活性化に向けたアイデアなど、産業に関わることに対するご意見があれば、ご記入ください。

【人材育成について】

- 子どもたちがのびのびと遊べる環境・公共交通機関の利便性向上
- 無料で資格取得や人材育成ができる場を整備してほしい

【駐車場について】

- 宜野湾海浜公園の駐車場立体化
- 市を訪れた人がいつでも利用できる駐車場の整備

【交通・道路について】

- 58号線から西普天間を通り抜け、普天間へ向かう道の一日も早い道路整備
- 県道81号線の信号の流れ改善が必要
- 真栄原十字路から大謝名十字路間の交通の便が悪いため道路拡張してほしい
- 西海岸の橋が開通して便利になったが、渋滞がひどい
- 市内専用バス(1周線等)昼夜間の運行

【既存施設について】

- 市内施設が一般開放されていない感じがする

【起業について】

- 空店舗対策の強化。建物をリノベーションして使用したくなるような助成制度を整備してほしい
- 空き店舗の家賃の保証(無料貸し)

【イベントについて】

- 普天間基地跡地に2、3万人収容のドームを建設し、スポーツやコンサートを開催する
- 森川公園でのイベント開催
- 既存イベントには他市町村にもあるものが多いので、宜野湾市独自のイベント開催が必要
- B級グルメのイベント開催(他県を招いて姉妹都市をつくる)
- 学生とのコラボ(オリジナル)・NAHAマラソンのような『GINOWANマラソン』などの開催
- オリジナルイベント、教育の充実(色々な国際文化交流や人材育成のイベント)
- プロ野球キャンプ開催時の、食品を扱う店を増やしてほしい

【商店街について】

- 普天間や大謝名通りに知名度のある店を誘致する
- 商店街が老朽化し雰囲気が悪い。自家用車両で入るには通りが狭い。駐車スペースが少ない

【特産品について】

- 使用していない田いも畑を整備し田いもでクラフトビールなどを作り、特産物として観光客に売り出す
- 中南部で数少ない大山ターブツァは是非とも残して観光産業として活用してもらいたい。先進地として長野県安曇野市の大王わさび農場は大いに参考になる

【情報発信】

- イベントに対する広告、アピールが少ない
- インスタ、LINE など、近年主流の情報発信手法の活用
- 情報の発信、提供により市民全てが考える機会が増え、議論も深まると思う
- 発信力が弱い。何をしているのか、何を目指しているか伝わらない
- 市内各施設でどんな事ができるのか、やっているのか、まったく情報が伝わってこない

【その他】

- 大山の田いも畑について、宜野湾市の文化として残してほしい
- 普天間基地の跡地利用について明確なビジョンを提示してほしい

(2) 事業者アンケート

■ 調査概要

調査対象	市内事業者 2000 先 ※2016 年の市内事業者リスト(総務省提供)より無作為抽出
調査手法	郵送による配布・回収
スケジュール	発送日:2018 年 10 月 19 日 締切日:2018 年 11 月 5 日
発送・回収件数	発送件数:2000 件 宛先不明による返送:164 件 有効回収数:446 件
回収率	24.3%
備考	構成比を示す表において、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない

■ 調査結果概要

回答した事業者の約 4 割は 5 年前と比較して業績は向上しているものの、人材不足や人件費の増大が経営上の大きな課題となっている。より良い人材を確保または引き留めておくためには待遇向上は必要であるが、経営にまで影響を及ぼすようになってきているとみられる。人材育成については、社内研修を実施しているケースが多い一方で、教育のための時間が取れないという課題もみられる。今後は、外部の研修専門会社などの利用が考えられる。

交通便利性の良さは事業上の利点として最も多く挙げられた。課題としては、従業者確保の困難さ、賃料・地価の高さなど、宜野湾市だけでなく全県的に抱える課題が挙げられた。

現在の場所での事業継続意向が高いため、宜野湾市内での事業運営についてはある程度満足しているとみていいだろう。

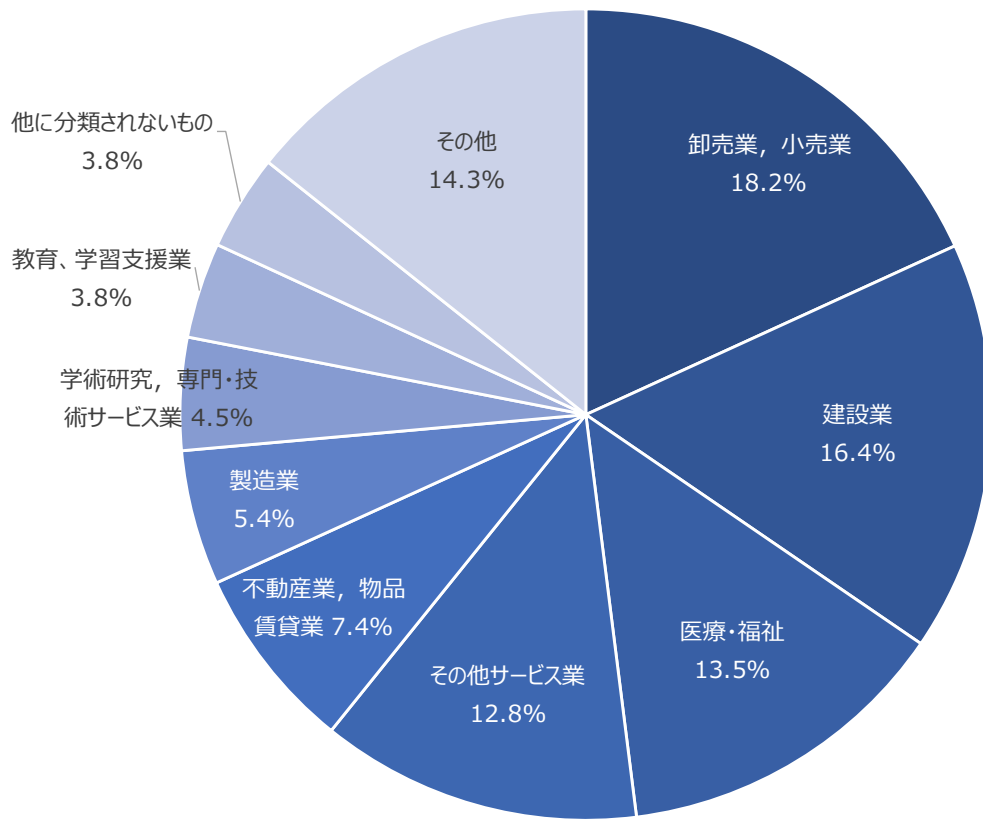
事業承継については、半数以上は意思決定がされていないことがうかがえる。

さまざまな支援機関があるが、利用されているのはごく少数であった。こうした支援機関の存在や支援内容などの情報発信がより重要になってくると考えられる。

行政に対する要望では、人材確保への支援が最も多かった。また、従業員数が 50 人以上の事業者からは、交通・物流基盤整備に関する意見が多い。西海岸道路開通による交通アクセスの向上はみられるが、その影響によりさらに交通渋滞が発生することも考えられる。日常的に渋滞が発生するエリアもあるため、交通基盤・インフラの整備は重要度の高い課題と言えそうだ。

■ 調査結果

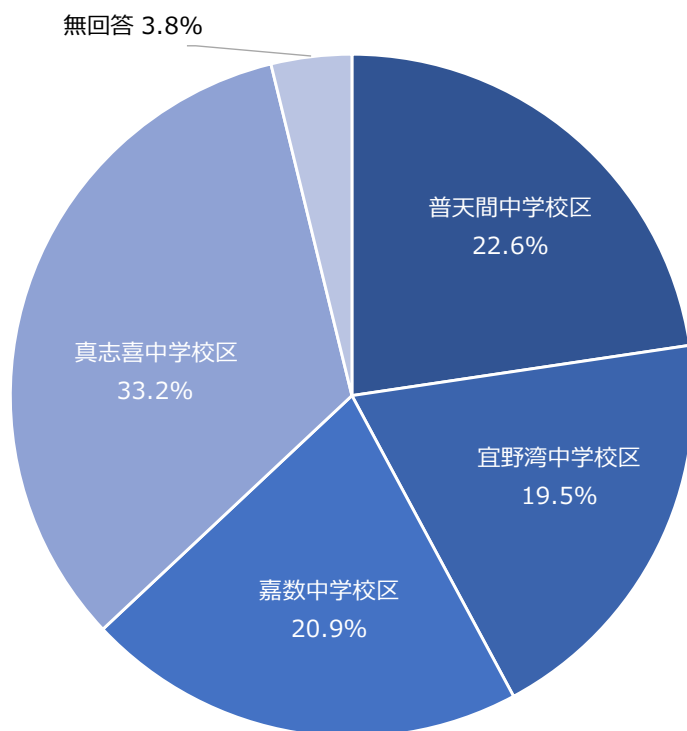
問 1. 貴事業所の業種に当てはまる番号 1 つに○をしてください。複数の業種にまたがる方は、売上高が最も大きな割合を占める業種を選択してください。※宜野湾市外にも事業所がある場合は、宜野湾市内の事業所のみ業種で回答ください。



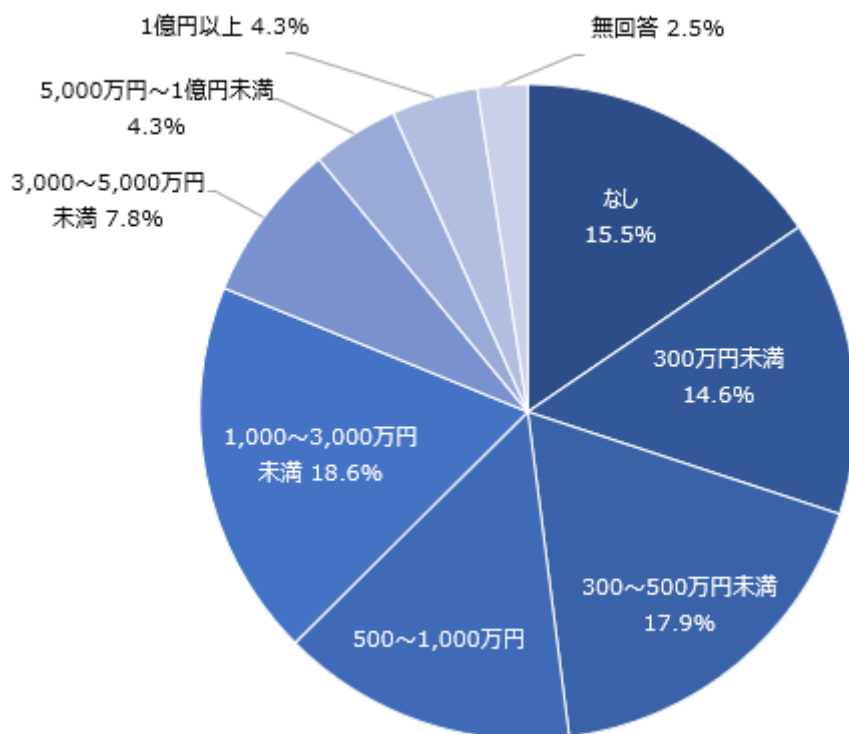
その他一覧 (%)

宿泊業・飲食サービス業	2.9
情報通信業	2.7
生活関連サービス業・娯楽業	2.2
運輸業, 郵便業	2.0
電気・ガス・熱供給・水道業	1.8
無回答	1.1
金融業, 保険業	0.9
複合サービス業	0.4
鉱業・採石業・砂利採取業	0.2

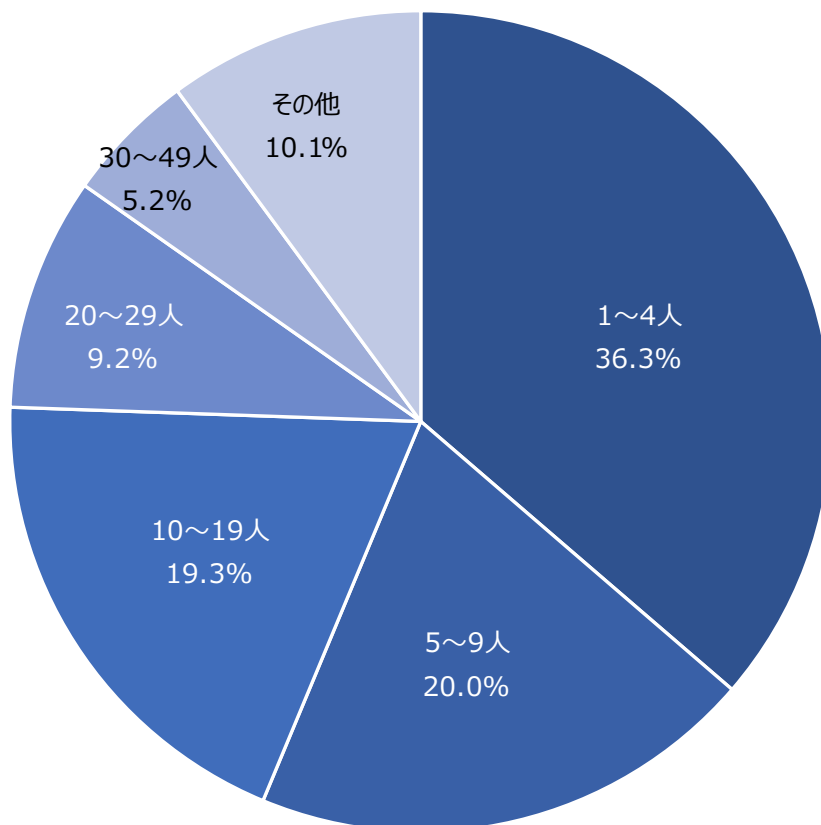
問 2. 事業所が所在する地区についてお聞きします。1 つに○をしてください。



問 3. 資本金についてお聞きします。1 つに○をしてください。



問 4. 従業員数についてお聞きします。1 つに○をしてください。

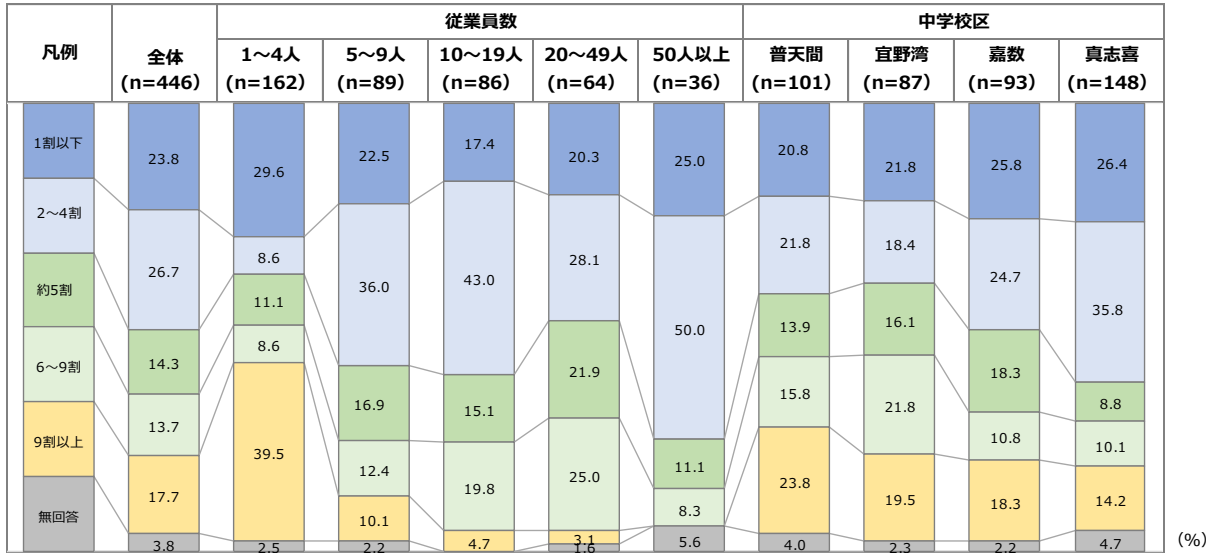


その他一覧 (%)

50~99人	4.0
100~199人	2.0
200~299人	0.7
300人以上	1.3
無回答	2.0

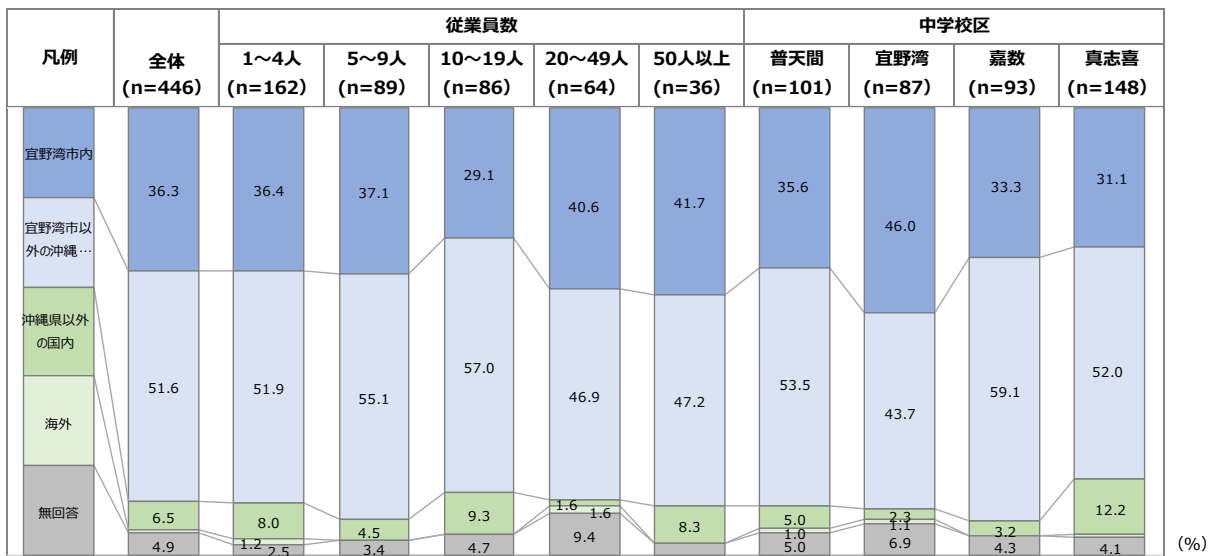
問 5. 従業員のうち、市内にお住まいの方の割合はおおむねどの程度ですか。1 つに○をしてください。

- 従業員が市内に住んでいる割合は、「2～4割」が 26.7%で最も多く、次いで「1割以下」23.8%であった。
- 従業員数の規模別で見ると、従業員が市内に住んでいる割合が「9割以上」と答えたのは、「従業員数 1～4人」で 39.5%であった。



問 6. 主要取引先(出荷先または受注先)の所在地はどちらですか。1 つに○をしてください。

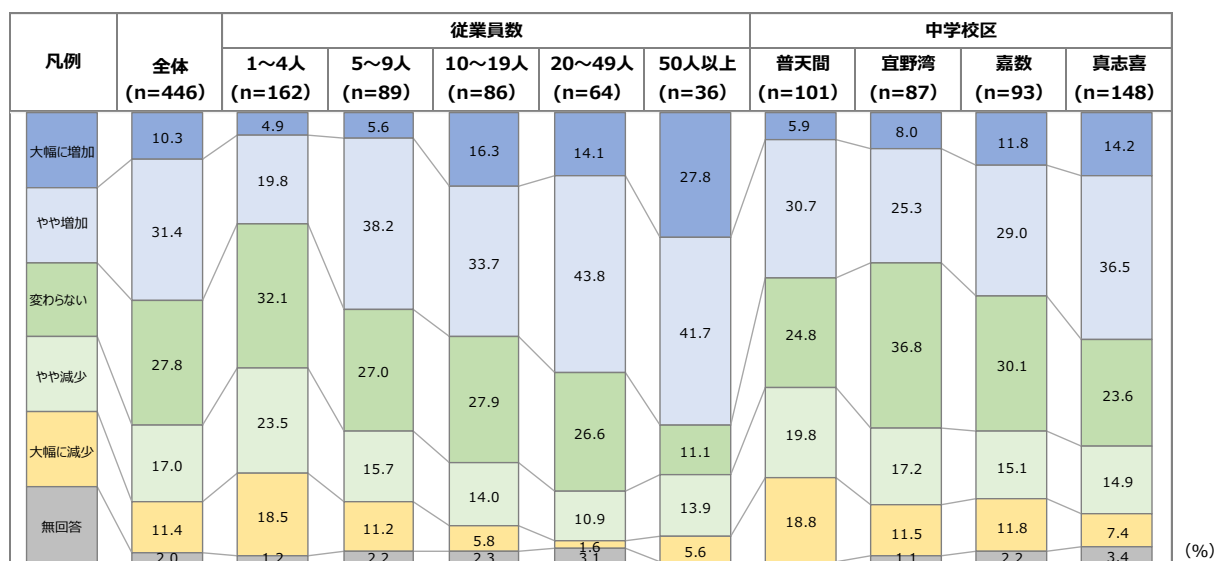
- 主要取引先は、半数以上が宜野湾市以外の地域である。宜野湾市内に取引先がある事業者数は 4割以下であった。



業況についてお聞きします。

問 7. 業績(売上高・利益等)は、5年前と比較して(5年未満の場合、設立(開業)時と比較して)どう変化していますか。1つに○をしてください。

- 5年前に比べ業績が向上した事業者の割合は 41.7% (「大幅に増加」10.3%、「やや増加」31.4%)であった。
- 業績が低下した事業者の割合は 28.4% (「やや減少」17.0%、「大幅に減少」11.1%)であった。
- 従業員数が増加するにつれ、業績が向上した事業者の割合が増加する傾向がみられる。「従業員数 1~4人」は 24.7% (「大幅に増加」4.9%、「やや増加」19.8%)に対し、「従業員数 50人以上」は 69.5% (「大幅に増加」27.8%、「やや増加」41.7%)となっている。



問 8. 問 7 で「1.大幅に増加」、「2.やや増加」とお答えした理由は何ですか。あてはまるもの 3 つまでに ○ をしてください。

- 業績向上の最も大きな理由は、「営業力の強化」で 59.1%であった。次いで「業務効率の向上」が 31.7%となっており、内部環境の改善が主な理由である。
- 従業員数別で見ると、「営業力の強化」が最も高かったのは「5～9 人」で 74.4%。「業務効率の向上」が最も高かったのは「10～19 人」で 41.9%であった。

凡例	全体 (n=186)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=40)	5～9人 (n=39)	10～19人 (n=43)	20～49人 (n=37)	50人以上 (n=25)	普天間 (n=37)	宜野湾 (n=29)	嘉数 (n=38)	真志喜 (n=75)
営業力の強化	59.1	52.5	74.4	60.5	51.4	56.0	59.5	55.2	63.2	58.7
業務効率の向上	31.7	32.5	41.0	41.9	18.9	20.0	35.1	31.0	36.8	28.0
施設や設備を増強	24.2	20.0	17.9	16.3	35.1	40.0	21.6	27.6	21.1	28.0
商品・サービスの差別化	19.4	27.5	5.1	25.6	21.6	16.0	16.2	24.1	18.4	21.3
新商品・サービスの開発	14.5	7.5	2.6	16.3	21.6	28.0	5.4	13.8	13.2	20.0
品揃えの充実・見直し	12.9	10.0	12.8	11.6	16.2	12.0	16.2	17.2	7.9	13.3
事業の多角化	11.8	10.0	5.1	20.9	10.8	12.0	16.2	6.9	10.5	12.0
ネットを利用した販路拡大	9.1	17.5	12.8	4.7	5.4	4.0	8.1	13.8	7.9	8.0
観光客の増加	8.6	12.5	5.1	11.6	0.0	16.0	2.7	6.9	2.6	13.3
商品・サービスの内製化	3.8	2.5	7.7	0.0	5.4	4.0	10.8	0.0	0.0	4.0
その他	10.2	12.5	5.1	7.0	10.8	20.0	10.8	6.9	7.9	12.0
無回答	3.2	5.0	0.0	2.3	5.4	0.0	2.7	0.0	7.9	1.3

(%)

問 9. 問 7 で「4.やや減少」、「5.大幅に減少」とお答えした理由は何ですか。あてはまるもの 3 つまでに ○ をしてください。

- 業績低下の最も大きな理由は、「競争激化」で 52.0%であった。次いで「市場の縮小」が 28.3%となっており、外部環境の変化が主な理由である。
- 従業員数別で見ると、「競争激化」の影響を最も受けたのは「5～9 人」で 79.2%。「市場縮小」の影響を最も受けたのは「10～19 人」で 41.2%であった。

凡例	全体 (n=186)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=40)	5～9人 (n=39)	10～19人 (n=43)	20～49人 (n=37)	50人以上 (n=25)	普天間 (n=37)	宜野湾 (n=29)	嘉数 (n=38)	真志喜 (n=75)
競争激化	52.0	51.5	79.2	35.3	37.5	42.9	48.7	52.0	48.0	57.6
市場の縮小	28.3	23.5	33.3	41.2	25.0	28.6	17.9	28.0	44.0	30.3
営業力不足	27.6	26.5	37.5	23.5	25.0	28.6	25.6	20.0	32.0	27.3
業務効率の低下	17.3	17.6	29.2	5.9	25.0	0.0	15.4	28.0	12.0	15.2
施設や設備の老朽化	15.7	16.2	12.5	23.5	0.0	28.6	23.1	20.0	8.0	12.1
仕入先からの値上げ要請	7.9	10.3	0.0	11.8	12.5	0.0	5.1	4.0	12.0	6.1
新商品・サービス開発の遅れ	6.3	8.8	8.3	0.0	0.0	0.0	7.7	4.0	0.0	9.1
納品先からの値下げ要請	3.9	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	2.6	8.0	8.0	0.0
品揃えの乏しさ	3.9	5.9	4.2	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	8.0	0.0
その他	18.9	16.2	12.5	17.6	50.0	28.6	20.5	28.0	16.0	12.1
無回答	5.5	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	10.3	0.0	4.0	6.1

(%)

貴事業所の強みと経営上の課題・問題点についてお聞きします。

問 10. 貴事業所の強みは何だと思えますか。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

- 強みの中で最も多かったのは、「顧客との信頼関係」が 70.6%で最も高く、次いで「顧客サービス」30.3%であった。
- 従業員数別で見ても、「顧客との信頼関係」をすべての従業員数で 7 割程度が選択している。「顧客サービス」と答えた割合が最も高かったのは「50 人以上」41.7%であった。

凡例	全体 (n=127)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=68)	5~9人 (n=24)	10~19人 (n=17)	20~49人 (n=8)	50人以上 (n=7)	普天間 (n=39)	宜野湾 (n=25)	嘉数 (n=25)	真志喜 (n=33)
顧客との信頼関係	70.6	71.2	70.8	71.4	69.8	75.0	78.6	64.3	72.5	68.8
顧客サービス	30.3	28.1	38.2	25.0	27.0	41.7	29.6	27.4	26.4	36.8
健全な財務体質	19.9	10.5	23.6	23.8	25.4	33.3	21.4	15.5	16.5	22.9
営業力、販売力、市場開拓力	15.0	11.1	10.1	20.2	17.5	27.8	11.2	11.9	15.4	17.4
商品知識	13.2	15.0	18.0	14.3	7.9	2.8	14.3	7.1	12.1	17.4
品質・鮮度	13.0	11.1	11.2	15.5	14.3	19.4	7.1	22.6	12.1	11.1
商品・サービスの開発力・品揃え	12.7	11.8	9.0	15.5	9.5	22.2	6.1	10.7	15.4	17.4
販売価格	11.8	16.3	10.1	13.1	4.8	8.3	12.2	14.3	8.8	12.5
店舗の利便性の良さ	11.1	11.8	11.2	6.0	15.9	13.9	6.1	16.7	12.1	11.1
顧客数（集客数）	8.6	5.9	10.1	8.3	9.5	16.7	8.2	11.9	9.9	6.3
企画提案力	8.1	8.5	9.0	9.5	7.9	2.8	9.2	3.6	7.7	10.4
効果的な広告・宣伝	3.7	5.9	3.4	2.4	3.2	0.0	6.1	6.0	3.3	1.4
売出し・イベント	1.6	0.7	2.2	2.4	1.6	2.8	1.0	2.4	0.0	2.1
その他	2.1	2.0	2.2	1.2	1.6	5.6	2.0	3.6	2.2	1.4
特になし	7.4	8.5	6.7	4.8	6.3	0.0	8.2	3.6	14.3	4.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 11. 貴事業所の経営上の課題・問題点についてお聞きします。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

- 経営上の課題・問題点で最も多かったのは「人材不足」56.7%。次いで「人件費の増大」23.7%であった。この 2 つの回答はどちらも従業員数が多くなるにつれ、答える割合が高くなっている。
- 「売上の減少」、「利益の減少」については、従業員数が少ない事業者への影響が大きい。

凡例	全体 (n=434)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=155)	5~9人 (n=89)	10~19人 (n=85)	20~49人 (n=63)	50人以上 (n=35)	普天間 (n=99)	宜野湾 (n=84)	嘉数 (n=92)	真志喜 (n=143)
人材不足	56.7	41.3	56.2	63.5	77.8	80.0	50.5	59.5	52.2	60.8
人件費の増大	23.7	11.0	23.6	30.6	39.7	40.0	20.2	22.6	28.3	24.5
設備の老朽化	22.1	20.0	23.6	18.8	23.8	34.3	23.2	28.6	16.3	20.3
売上の減少	20.5	29.7	23.6	14.1	6.3	11.4	24.2	23.8	19.6	17.5
利益の減少	19.8	29.0	22.5	14.1	4.8	14.3	25.3	23.8	20.7	13.3
コストの増大	15.4	10.3	11.2	18.8	20.6	34.3	7.1	16.7	20.7	18.9
経営者の高齢化	15.0	14.8	19.1	17.6	11.1	2.9	16.2	10.7	15.2	18.2
大型店や同業他社との競争激化	14.3	14.2	14.6	5.9	22.2	20.0	17.2	7.1	10.9	17.5
販路開拓難	7.4	12.9	4.5	3.5	3.2	5.7	7.1	4.8	8.7	7.7
資金繰りの悪化	5.3	6.5	4.5	7.1	0.0	8.6	3.0	6.0	3.3	7.0
新商品・サービスの不足	4.8	5.8	4.5	3.5	4.8	2.9	6.1	3.6	3.3	6.3
取引先の減少	4.1	5.2	6.7	2.4	3.2	0.0	2.0	2.4	7.6	3.5
店舗の利便性が悪い	2.5	2.6	3.4	4.7	0.0	0.0	3.0	6.0	1.1	1.4
その他	2.1	2.6	1.1	2.4	3.2	0.0	2.0	2.4	3.3	1.4
特になし	9.7	13.5	7.9	8.2	6.3	0.0	14.1	6.0	10.9	7.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 12. 経営上の課題・問題点解決のために取り組んでいることについてお聞きします。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

- 課題・問題点解決の取り組みで最も多かったのは「人材の確保と育成」58.4%。次いで「経費節減（人件費除く）」28.7%であった。
- 「人材の確保と育成」は従業員数が多い企業で、多く挙げられている。

凡例	全体 (n=428)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=152)	5~9人 (n=87)	10~19人 (n=83)	20~49人 (n=63)	50人以上 (n=36)	普天間 (n=98)	宜野湾 (n=85)	嘉数 (n=89)	真志喜 (n=140)
人材の確保と育成	58.4	37.5	51.7	74.7	85.7	83.3	54.1	62.4	56.2	60.7
経費節減（人件費除く）	28.7	26.3	34.5	21.7	27.0	50.0	27.6	32.9	31.5	25.7
営業・販売力強化	27.8	26.3	33.3	22.9	20.6	44.4	25.5	21.2	25.8	33.6
施設や設備の増強	12.9	12.5	10.3	9.6	22.2	13.9	14.3	15.3	11.2	12.9
仕入れの見直し・効率化	12.1	11.8	18.4	13.3	9.5	2.8	12.2	14.1	11.2	12.1
企画提案力の強化	11.9	7.9	14.9	18.1	12.7	8.3	16.3	12.9	10.1	10.7
情報収集やマーケティング力の強化	11.4	14.5	5.7	13.3	11.1	8.3	8.2	16.5	13.5	8.6
顧客要望に沿った商品・サービス開発	10.7	14.5	6.9	3.6	11.1	16.7	11.2	8.2	7.9	12.9
資金力や財務体質の強化	9.1	9.2	9.2	13.3	4.8	8.3	10.2	3.5	7.9	11.4
品質向上や品揃えの強化	8.9	10.5	6.9	9.6	7.9	8.3	3.1	9.4	12.4	10.7
商品知識の充実	6.3	8.6	5.7	7.2	1.6	2.8	9.2	5.9	2.2	7.1
人件費の削減	5.8	3.9	10.3	7.2	4.8	2.8	5.1	3.5	9.0	4.3
企業や研究機関との連携強化	3.5	0.7	2.3	6.0	4.8	11.1	3.1	5.9	6.7	0.7
その他	2.8	2.6	4.6	1.2	3.2	2.8	2.0	1.2	5.6	2.9
特になし	10.7	17.8	9.2	3.6	6.3	0.0	13.3	8.2	12.4	9.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

貴事業所の事業環境についてお聞きします。

問 13. 宜野湾市での事業上の利点についてお聞きします。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

- 事業上の利点で最も多かったのは、「交通利便性が良い」64.4%、次いで「取引先、顧客に近い」30.5%であった。ともに従業員数「50人以上」の事業所の割合が最も高かった。
- 従業員数別で見ると「交通利便性が良い」、「顧客、取引先に近い」と答えた割合は「50人以上」が最も高い。

凡例	全体 (n=433)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=155)	5~9人 (n=88)	10~19人 (n=85)	20~49人 (n=61)	50人以上 (n=36)	普天間 (n=98)	宜野湾 (n=87)	嘉数 (n=87)	真志喜 (n=145)
交通利便性が良い	64.4	63.9	58.0	65.9	72.1	72.2	65.3	58.6	72.4	64.8
取引先、顧客に近い	30.5	27.1	35.2	28.2	32.8	36.1	27.6	32.2	34.5	27.6
競合や同業種が少ない	8.8	9.0	8.0	9.4	11.5	5.6	6.1	10.3	10.3	9.0
賃料、地価が安い	7.6	11.0	6.8	7.1	4.9	2.8	6.1	11.5	9.2	5.5
宜野湾市の支援が充実している	6.7	2.6	9.1	8.2	13.1	5.6	7.1	6.9	5.7	6.9
従業者を確保しやすい	6.5	3.9	4.5	8.2	8.2	16.7	3.1	5.7	10.3	5.5
関連業種が集積している	6.0	5.8	9.1	4.7	4.9	5.6	4.1	8.0	3.4	8.3
その他	2.3	3.2	2.3	1.2	0.0	5.6	3.1	1.1	2.3	2.8
特になし	24.9	26.5	30.7	25.9	13.1	16.7	25.5	23.0	23.0	26.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 14. 宜野湾市での事業上の問題点についてお聞きます。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

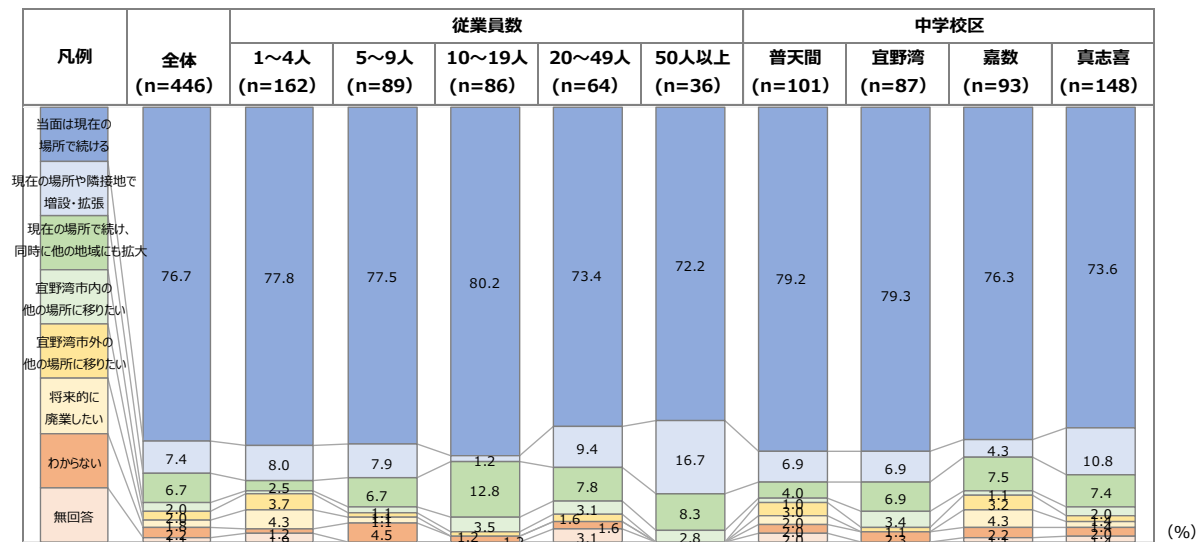
- 事業上の問題点で最も多かったのは、「従業員を確保しにくい」18.7%であったが、「賃料、地価が高い」17.7%、「競合や同業種が多い」16.5%、「宜野湾市の支援が充実していない」16.5%などとほぼ同率であった。
- 従業員数「50人以上」において、「交通利便性が悪い」が全体平均の倍近い水準であるほか、「従業員を確保しにくい」、「賃料、地価が高い」、「競合や同業種が多い」など、課題が多く挙げられている。

凡例	全体 (n=423)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=152)	5~9人 (n=87)	10~19人 (n=79)	20~49人 (n=61)	50人以上 (n=36)	普天間 (n=95)	宜野湾 (n=83)	嘉数 (n=86)	真志喜 (n=143)
従業員を確保しにくい	18.7	11.2	13.8	31.6	24.6	27.8	12.6	28.9	16.3	18.9
賃料、地価が高い	17.7	16.4	23.0	16.5	11.5	25.0	16.8	19.3	11.6	21.7
競合や同業種が多い	16.5	19.7	11.5	15.2	16.4	22.2	22.1	15.7	17.4	14.0
宜野湾市の支援が充実していない	16.5	17.8	16.1	20.3	13.1	13.9	17.9	18.1	17.4	16.1
交通利便性が悪い	11.8	7.2	16.1	8.9	13.1	22.2	7.4	16.9	10.5	10.5
取引先、顧客から遠い	4.0	6.6	2.3	3.8	0.0	5.6	5.3	7.2	3.5	2.1
その他	3.1	3.9	1.1	2.5	3.3	5.6	3.2	2.4	5.8	2.1
特になし	48.2	53.3	51.7	38.0	47.5	36.1	50.5	38.6	52.3	49.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

貴事業所の今後の事業展開についてお聞きます。

問 15. 現在の場所での事業継続意向についてお聞きます。1 つに○をしてください。

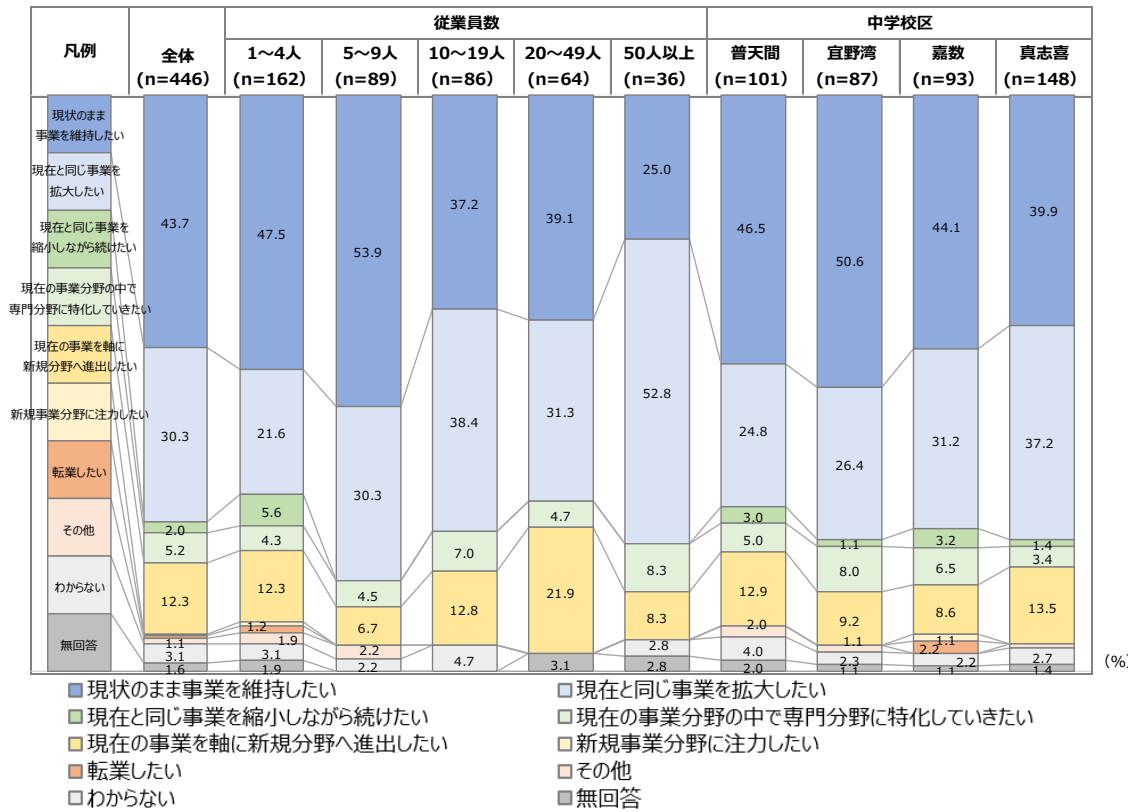
- 現在の場所での事業継続意向については、「当面は現在の場所で続ける」が 76.7%で最も多かった。



- 当面は現在の場所で続ける
- 現在の場所や隣接地で増設・拡張
- 現在の場所で続け、同時に他の地域にも拡大
- 宜野湾市内の他の場所に移りたい
- 宜野湾市外の他の場所に移りたい
- 将来的に廃業したい
- わからない
- 無回答

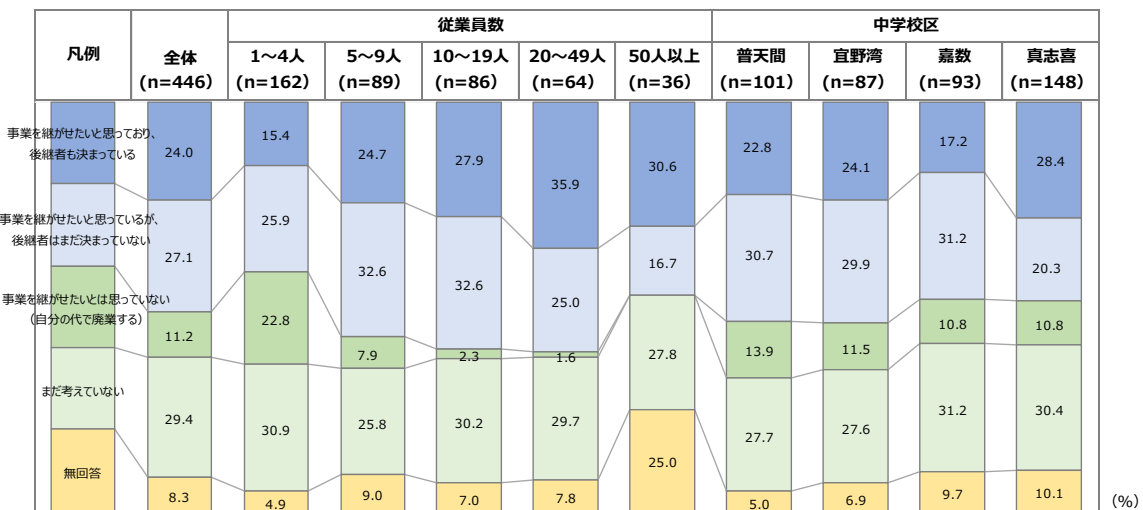
問 16. 今後の事業規模・事業分野についてお聞きします。1 つに○をしてください。

- 今後の事業展開については、「現状のまま事業を維持したい」が 43.7%で最も多く、次いで「現在と同じ事業を拡大したい」が 30.3%であった。
- 従業員数別にみると、「現状のまま事業を維持したい」の割合が最も高いのは「5～9 人」で 53.9%、「現在と同じ事業を拡大したい」の割合が最も高いのは「50 人以上」で 52.8%であった。



問 17. 事業承継についてお聞きします。1 つに○をしてください。

- 事業承継について最も多かったのは「まだ考えていない」29.4%、次いで「事業を継がせたいと思っているが、後継者はまだ決まっていない」27.1%であった。
- 従業員数「1～4 人」では、「事業を継がせたいとは思っていない(自分の代で廃業する)」と答えた割合が他の従業員規模の企業よりも高かった。



人材育成・確保についてお聞きします。

問 18. 人材育成のために実施している取り組みについてお聞きします。あてはまるもの全てに○をしてください。

- 人材育成への取り組みで最も多かったのは、「現場での指導」67.7%、次いで「社内研修」36.8%であった。
- 「社内研修」については、従業員数が多くなるにつれ、選択される割合が高くなっている。

凡例	全体 (n=437)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=156)	5~9人 (n=89)	10~19人 (n=86)	20~49人 (n=63)	50人以上 (n=36)	普天間 (n=96)	宜野湾 (n=87)	嘉数 (n=92)	真志喜 (n=146)
現場での指導	67.7	48.1	71.9	77.9	90.5	88.9	65.6	66.7	64.1	71.9
社内研修	36.8	19.9	24.7	41.9	63.5	86.1	27.1	36.8	39.1	42.5
業界団体主催の研修	24.5	11.5	27.0	29.1	36.5	47.2	24.0	21.8	27.2	26.0
自己啓発・自己研鑽	23.3	17.9	19.1	24.4	28.6	47.2	19.8	20.7	23.9	24.0
公的機関主催の研修	17.4	7.1	19.1	19.8	27.0	36.1	20.8	13.8	15.2	18.5
民間企業主催の研修	15.6	7.1	7.9	18.6	28.6	41.7	11.5	11.5	17.4	19.2
他社への派遣	3.7	3.2	3.4	3.5	6.3	2.8	3.1	1.1	4.3	4.8
その他	1.8	1.3	1.1	0.0	3.2	2.8	2.1	3.4	1.1	0.7
特に行っていない	18.5	37.8	11.2	7.0	1.6	0.0	24.0	17.2	19.6	15.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 19. 人材育成上の課題についてお聞きします。あてはまるもの3つまでに○をしてください。

- 人材育成上の課題について最も多かったのは、「時間が取れない」39.6%、次いで「人材が定着しない」26.8%であった。
- 「時間が取れない」、「人材が定着しない」とともに従業員数「50人以上」の事業者の割合が最も高かった。

凡例	全体 (n=422)	従業員数					中学校区			
		1~4人 (n=149)	5~9人 (n=87)	10~19人 (n=82)	20~49人 (n=63)	50人以上 (n=34)	普天間 (n=91)	宜野湾 (n=86)	嘉数 (n=90)	真志喜 (n=140)
時間がとれない	39.6	28.2	32.2	51.2	49.2	67.6	28.6	32.6	44.4	47.9
人材が定着しない	26.8	20.1	28.7	26.8	31.7	44.1	23.1	29.1	30.0	21.4
対象人材に意欲がない	16.1	14.8	8.0	22.0	28.6	5.9	20.9	18.6	16.7	10.7
対象となる人材がない	16.1	20.8	11.5	11.0	22.2	11.8	13.2	16.3	16.7	17.1
資金がない	14.0	18.8	12.6	11.0	12.7	8.8	16.5	12.8	13.3	12.1
育成方法がわからない	5.0	4.0	4.6	8.5	6.3	0.0	5.5	2.3	4.4	7.1
育成の必要性を感じない	2.6	4.0	4.6	0.0	0.0	2.9	3.3	3.5	4.4	0.7
その他	1.7	2.0	1.1	0.0	3.2	2.9	1.1	4.7	1.1	0.7
特になし	28.9	37.6	33.3	19.5	17.5	14.7	34.1	30.2	23.3	29.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 20. 人材を確保する目的についてお聞きます。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

- 人材確保の目的で最も多かったのは、「即戦力が必要」45.6%、次いで「若い人材が必要」44.4%であった。
- 従業員数別で見ると、「即戦力が必要」と答えた割合が最も高かったのは「20～49人」で60.3%、「若い人材が必要」と答えた割合が最も高かったのは「10～19人」で54.7%であった。
- 従業員数10人以上では、「退職者の補充」と答えた割合が3割以上となっている。

凡例	全体 (n=430)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=153)	5～9人 (n=86)	10～19人 (n=86)	20～49人 (n=63)	50人以上 (n=36)	普天間 (n=93)	宜野湾 (n=87)	嘉数 (n=91)	真志喜 (n=143)
即戦力が必要	45.6	32.7	53.5	50.0	60.3	52.8	41.9	43.7	53.8	42.7
若い人材が必要	44.4	32.7	47.7	54.7	52.4	52.8	45.2	37.9	50.5	42.7
技能・技術等の伝承	26.7	24.2	34.9	23.3	31.7	19.4	29.0	23.0	33.0	25.2
営業力強化	24.4	24.2	27.9	22.1	17.5	36.1	18.3	24.1	24.2	28.0
退職者の補充	21.6	6.5	16.3	34.9	38.1	41.7	22.6	19.5	16.5	25.9
勤務体制の改善	19.1	13.1	11.6	22.1	27.0	41.7	16.1	19.5	15.4	21.7
新規事業・事業拡大	13.3	11.8	8.1	17.4	12.7	25.0	7.5	12.6	11.0	17.5
その他	0.7	1.3	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.7
人材確保は必要ない	13.5	26.8	11.6	2.3	0.0	2.8	20.4	14.9	13.2	9.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 21. 人材確保のために実施したことがある取り組みについてお聞きます。あてはまるもの 3 つまでに○をしてください。

- 人材確保の取り組みで最も多かったのは、「賃金等の増額」41.7%、次いで「求人広告の活用」32.5%であった。
- 従業員数別で見ると、「賃金等の増額」と答えた割合が最も高かったのは「20～49人」で60.3%、「求人広告の活用」と答えた割合が最も高かったのも「20～49人」で46.0%であった。
- 従業員数50人以上では、「賃金等の増額」「正規雇用の拡大」と答えた割合が5割以上となっている。

凡例	全体 (n=434)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=155)	5～9人 (n=88)	10～19人 (n=86)	20～49人 (n=63)	50人以上 (n=35)	普天間 (n=96)	宜野湾 (n=85)	嘉数 (n=91)	真志喜 (n=146)
賃金等の増額	41.7	24.5	42.0	57.0	60.3	54.3	29.2	48.2	47.3	45.9
求人広告の活用	32.5	19.4	40.9	41.9	46.0	25.7	25.0	31.8	31.9	37.7
正規雇用の拡大	27.2	18.1	22.7	32.6	38.1	51.4	22.9	27.1	29.7	28.8
休みやすい職場環境づくり	24.2	19.4	21.6	30.2	33.3	22.9	19.8	31.8	22.0	22.6
就労支援機関の活用（ハローワーク等）	23.3	14.2	26.1	27.9	34.9	25.7	20.8	28.2	17.6	23.3
福利厚生充実	20.5	14.8	28.4	22.1	20.6	25.7	15.6	32.9	16.5	20.5
人材育成のための研修制度の拡充	14.3	10.3	18.2	12.8	20.6	17.1	9.4	17.6	14.3	15.1
短時間労働制の採用 （勤務時間短縮・短時間正社員制度等）	13.4	9.0	15.9	10.5	22.2	20.0	14.6	14.1	11.0	13.0
障がい者など多様な人の雇用推進	2.5	1.3	0.0	3.5	4.8	8.6	1.0	1.2	4.4	2.7
在宅労働の採用	1.6	1.3	3.4	1.2	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	4.1
その他	1.6	1.9	0.0	1.2	3.2	2.9	1.0	0.0	1.1	3.4
特になし	20.0	42.6	11.4	4.7	0.0	2.9	29.2	17.6	22.0	15.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

支援策の活用状況についてお聞きします。

問 22. 関わりがあった支援機関についてお聞きします。あてはまるの全てに○をしてください。

- 最も関わりがあった支援機関は、「宜野湾市商工会」で 35.1%、次いで「沖縄労働局」18.3%であった。一方で、「特になし」が 36.8%であった。
- 従業員数別で見ると、「宜野湾市商工会」と答えた割合が最も高かったのは、「5～9 人」で 45.3%。「沖縄労働局」と答えた割合が最も高かったのは「50 人以上」であった。

凡例	全体 (n=427)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=156)	5～9人 (n=86)	10～19人 (n=81)	20～49人 (n=60)	50人以上 (n=36)	普天間 (n=97)	宜野湾 (n=83)	嘉数 (n=91)	真志喜 (n=140)
宜野湾市商工会	35.1	35.9	45.3	43.2	21.7	16.7	34.0	28.9	34.1	39.3
沖縄労働局	18.3	9.6	15.1	24.7	26.7	36.1	15.5	13.3	22.0	20.0
沖縄県産業振興公社	7.7	5.1	9.3	9.9	10.0	8.3	5.2	7.2	6.6	10.7
沖縄県中小企業家同友会	5.9	1.3	7.0	4.9	13.3	11.1	2.1	7.2	7.7	5.7
沖縄総合事務局	7.3	3.8	5.8	8.6	8.3	19.4	6.2	4.8	7.7	9.3
中小機構	4.0	3.8	4.7	4.9	1.7	2.8	4.1	1.2	7.7	2.1
大学等の教育研究機関	4.4	1.9	3.5	4.9	10.0	8.3	4.1	3.6	6.6	3.6
ゼロ	0.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.1	0.0
その他	7.0	3.2	8.1	3.7	13.3	19.4	2.1	7.2	5.5	10.7
支援機関との関わりはない	6.6	8.3	8.1	2.5	6.7	5.6	8.2	6.0	4.4	7.1
特になし	36.8	44.9	30.2	28.4	33.3	30.6	39.2	41.0	35.2	35.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問 23. 活用したことがある支援策についてお聞きします。あてはまるもの全てに○をしてください。

- 活用したことがある支援で最も多かったのは、「セミナー等への参加」39.9%、次いで「補助金・助成金の受給」19.5%であった。
- 従業員数別で見ると、「セミナー等への参加」、「補助金・助成金の受給」ともに「10～19 人」の割合が最も高かった。
- 従業員数「1～4 人」では、「なし」と答えた割合が 5 割以上となっている。

凡例	全体 (n=421)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=154)	5～9人 (n=82)	10～19人 (n=82)	20～49人 (n=61)	50人以上 (n=34)	普天間 (n=94)	宜野湾 (n=82)	嘉数 (n=92)	真志喜 (n=137)
セミナー等への参加	39.9	28.6	41.5	52.4	47.5	50.0	35.1	37.8	45.7	39.4
補助金・助成金の受給	19.5	7.8	23.2	29.3	27.9	26.5	18.1	11.0	23.9	22.6
各種交流会への参加	18.5	13.6	18.3	15.9	29.5	29.4	19.1	20.7	17.4	18.2
事業資金の融資	16.6	15.6	23.2	18.3	11.5	14.7	18.1	15.9	17.4	16.1
人材教育・育成	12.1	5.8	9.8	15.9	21.3	20.6	12.8	9.8	16.3	9.5
経営相談・専門家派遣	6.7	5.2	4.9	6.1	11.5	8.8	5.3	9.8	6.5	5.1
人材の確保	5.9	1.3	3.7	12.2	8.2	14.7	7.4	7.3	5.4	4.4
技術・サービス指導・支援	5.5	6.5	7.3	3.7	4.9	2.9	5.3	7.3	4.3	5.8
マッチングイベント・商談会への参加	2.9	0.6	2.4	3.7	1.6	14.7	2.1	1.2	3.3	4.4
知財・特許等の取得・譲渡支援	1.2	1.9	0.0	1.2	0.0	2.9	1.1	1.2	2.2	0.7
その他	0.2	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
なし	39.9	53.2	34.1	24.4	32.8	32.4	45.7	42.7	37.0	36.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

宜野湾市の産業施策への要望についてお聞きします。

問 24. 行政からの支援施策として、どのようなことを望みますか。(3つに○)

- 行政に望む支援策で最も多かったのは、「人材確保への支援」41.9%、次いで「補助金・融資等の制度の拡充」34.6%であった。
- 従業員数別で見ると、「人材確保への支援」が最も高かったのは「50人以上」の57.6%、「補助金・融資等の制度の拡充」が最も高かったのは「1～4人」の40.0%であった。
- 従業員数「50人以上」では、「交通・物流基盤の整備」が36.4%と比較的高い割合であった。

凡例	全体 (n=341)	従業員数					中学校区			
		1～4人 (n=115)	5～9人 (n=63)	10～19人 (n=69)	20～49人 (n=56)	50人以上 (n=33)	普天間 (n=75)	宜野湾 (n=71)	嘉数 (n=71)	真志喜 (n=111)
人材確保への支援	41.9	27.0	39.7	55.1	53.6	57.6	45.3	49.3	42.3	36.0
補助金・融資等の制度の拡充	34.6	40.0	30.2	37.7	28.6	33.3	33.3	33.8	38.0	32.4
人材の確保・育成の場や機会の提供	26.4	18.3	19.0	30.4	39.3	39.4	26.7	26.8	25.4	24.3
各種支援制度の情報提供	24.3	23.5	36.5	20.3	21.4	21.2	22.7	33.8	14.1	24.3
道路や上下水道などの基盤整備	21.1	22.6	23.8	17.4	21.4	18.2	16.0	28.2	31.0	15.3
中小企業の事業環境整備の支援	19.1	20.0	19.0	26.1	14.3	9.1	25.3	14.1	21.1	16.2
空き店舗や敷地情報の提供	14.4	19.1	6.3	10.1	19.6	15.2	16.0	12.7	15.5	14.4
交通・物流基盤の整備	14.4	13.0	12.7	7.2	12.5	36.4	9.3	12.7	18.3	16.2
支援施策に関する情報提供	14.1	17.4	19.0	10.1	12.5	6.1	10.7	14.1	18.3	14.4
IT講習会の開催	7.6	7.0	6.3	8.7	12.5	3.0	6.7	9.9	8.5	7.2
他の企業や団体との交流の場の充実	3.8	2.6	4.8	4.3	5.4	0.0	8.0	2.8	1.4	0.9
ベンチャー基金等の創設	3.2	7.8	1.6	0.0	1.8	0.0	5.3	0.0	4.2	3.6
新規事業に関わる相談や講習会の開催	3.2	4.3	1.6	4.3	1.8	3.0	1.3	1.4	2.8	5.4
経営相談の実施	2.9	6.1	1.6	2.9	0.0	0.0	4.0	0.0	4.2	2.7
販売先や仕先の開拓支援	2.9	5.2	3.2	2.9	0.0	0.0	1.3	2.8	0.0	5.4
専門家の派遣	1.5	0.0	0.0	4.3	0.0	6.1	2.7	2.8	0.0	0.9
その他	1.8	0.0	6.3	0.0	1.8	0.0	2.7	2.8	0.0	1.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

自由意見(簡易整理)

上記の質問以外に、市の産業振興に関わる事項で、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入下さい。

【交通・インフラ】

- 大山の工業地帯の幹線道路に信号機がなく優先道路が判りづらく事故が多いので改善してほしい
- 朝夕の交通渋滞対策をしてほしい
- 西海岸商業地帯が混雑している。信号の時間を長くするなどの対応をしてほしい
- 介護施設の送迎車がバスレーンを通行できるようにしてほしい
- 公営の有料駐車場を整備してほしい

【事業者支援】

- 低金利融資制度の要望
- 行政の支援などをパンフレットや FAX などを利用して事業者へ分かりやすく周知してほしい。現在は、事業者が市の HP などに探しに行かなければ、どんな支援があるのかわからない
- 指名参加では市内業社を優先にしてほしい。発注案件を増やして欲しい
- 那覇市のように容積率(宿泊施設)の緩和策を積極的に取り入れて、既存施設が拡大できるようにしてほしい
- 各施設を面的につなげ、消費者が回遊して消費単価を上げられるような施策がほしい

【人材育成】

- 介護施設の人材確保の難しさを改善するための政策が必要
- 人材確保のため、介護研修を市主体で取り組んでほしい

【景観・環境】

- 景観を良くする「電柱無し、電線の埋設」を推進してほしい
- 主要道路には、草が生い茂り見苦しい。ゴミも散乱している
- 地域の風紀を乱し、安心と安全を確保できない民泊の規制
- 普天間周辺の開発、街並みの整備

【その他】

- 固定資産税が高い、市県民税が高い
- 自立型産業の展望、進展を望む。主体性を発揮すべきである
- 西普天間地区の開発状況が気になる
- 普天間基地の即時閉鎖または撤去することで宜野湾市の発展が期待できる
- 基地跡地に企業を誘致して宜野湾市の人材を優先的に採用してもらいたい

3 宜野湾市産業振興計画推進協議会

■ 宜野湾市産業振興計画推進協議会の概要

会議名	年月日	内容
第1回推進協議会	平成30年 10月1日	<ul style="list-style-type: none"> ● 第二次宜野湾市産業振興計画の目的、実施体制および策定スケジュールについて ● 宜野湾市産業振興計画の総評について ● 各種ニーズ調査の実施について
第2回推進協議会	平成30年 12月5日	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回推進協議会のご意見と対応方針 ● 各種ニーズ調査の結果
第3回推進協議会	平成31年 1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回推進協議会のご意見と対応方針 ● 第二次宜野湾市産業振興計画素案（施策内容、推進体制） ● パブリックコメントの募集について
第4回推進協議会	平成31年 2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3回推進協議会のご意見と対応方針 ● パブリックコメントの結果報告 ● 第二次宜野湾市産業振興計画案

■ 委員名簿

区分	氏名	役職等
会長	名嘉座 元一	沖縄国際大学経済学部 経済学科 教授
副会長	福里 清孝	宜野湾市商工会 会長
	津波古 透	宜野湾市商工会 事務局長
	高里 健作	一般社団法人宜野湾市観光振興協会 会長
	川平 正人	公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会 専務理事
	小渡 玠	沖縄県中小企業家同友会 相談役
	金良 実	公益財団法人沖縄県産業振興公社 事務局長
	宮城 昌章	J Aおきなわ宜野湾支店 支店長
	中西 聡明	浦添・宜野湾漁業協同組合 代表理事組合長
	具志頭 朝一	一般公募委員（策定委員）
	波平 道子	一般公募委員（策定委員）
	久田 友次郎	沖縄総合事務局 経済産業部 地域経済課 課長
	喜友名 朝弘	沖縄県 商工労働部 産業政策課 課長
	国吉 孝博	宜野湾市 市民経済部 部長
	米須 良清	宜野湾市 企画部 部長

■ 宜野湾市産業振興計画推進協議会設置規則

平成 26 年 3 月 28 日

規則第 16 号

改正 平成 27 年 3 月 12 日規則第 8 号

平成 30 年 11 月 14 日規則第 61 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、宜野湾市附属機関設置条例(昭和 55 年宜野湾市条例第 9 号)第 3 条の規定に基づき、宜野湾市産業振興計画推進協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第 2 条 協議会は、市長の諮問に応じ、宜野湾市産業振興計画(以下「計画」という。)の策定及び進捗状況等を管理し、産業振興の推進等に関する事項を審議する。

(平 30 規則 61・一部改正)

(組織)

第 3 条 協議会は、委員 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱又は任命する。

(1)学識経験者

(2)関係団体を代表する者

(3)一般公募により選任された者

(4)関係行政機関の職員

(5)前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(会長及び副会長)

第 4 条 協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により、これを定める。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第 5 条 委員の任期は、5 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の規定にかかわらず、委員が委嘱又は任命された時における当該身分を失った場合は、委員の職を失うものとする。

3 委員の再任は妨げない。

(会議)

第 6 条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 議事は、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは、会長がこれを決する。

(意見の聴取)

第 7 条 会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第 8 条 協議会の庶務は、産業振興担当課が所掌する。

(平 27 規則 8・一部改正)

(委任)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成 27 年 3 月 12 日規則第 8 号)

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則(平成 30 年 11 月 14 日規則第 61 号)

この規則は、公布の日から施行し、平成 30 年 10 月 1 日から適用する。

4 パブリックコメント

計画の策定にあたり、「第二次宜野湾市産業振興計画(案)」について、市ホームページ等を通じて市民からご意見を募集しました。

■ 目的

計画策定過程における公正性および透明性の向上を図り、もって市民や事業所、各種団体の意見を反映させ、市民と行政の協働による計画策定に資することを目的とする。

■ 対象

- ・市内に住所を有する者
- ・市内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体
- ・市内に存する事務所または事業所に勤務する者
- ・市内に存する学校に在学する者
- ・市税の納税義務者
- ・上記に掲げるもののほか、策定される計画に利害関係を有するもの

■ 実施場所

- ・市ホームページへの掲載
- ・実施担当課における閲覧
- ・宜野湾市役所 1 階総合案内における閲覧
- ・宜野湾市民図書館における閲覧
- ・宜野湾ベイサイド情報センターにおける閲覧

■ 計画案の公開および意見の募集期間

平成 31 年 1 月 28 日(月)～平成 31 年 2 月 18 日(月)

■ 意見の提出者数および件数

提出者:0 名 提出件数:0 件

第二次宜野湾市産業振興計画

発行日：2019(平成 31)年 3 月

発行：沖縄県宜野湾市 市民経済部 産業政策課、観光農水課

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目 1 番 1 号

電話 098-893-4411(代表)